

1. 件名：「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-92)、  
廃棄物管理施設(67))」

2. 日時：令和5年8月28日(月) 11時00分～11時45分  
13時10分～15時05分

3. 場所：原子力規制庁 10階会議室(TV会議により実施)

#### 4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

古作企画調査官、岸野主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、上出安  
全審査官、武田安全審査官

日本原燃株式会社 技術本部 土木建築部 部長 他2名

株式会社大林組 原子力本部 設計第一部 担当部長

東電設計株式会社 土木部 耐震技術部 担当職

#### 5. 要旨

(1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)から令和5年8月21日  
及び8月25日の提出資料に基づき、基準地震動に基づく入力地震動の策定  
(地盤モデルの設定)について確認を行った。

(2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。

- ・岩盤部分の物性値等については、中央・東・西エリアに区分する2つの断層以外に敷地内に存在している断層が地盤構造の境界になっていないかを整理する。
- ・岩盤部分の減衰定数については、既往及び追加の試験結果等により得られるデータをどう扱って設計に使用する減衰定数を決定するのか全体体系を整理する。
- ・表層地盤の物性値等については、埋め戻し土の施工年代別のデータなど一見異なるデータを並べた上でこれらが同一だと主張するのみでなく、データをどのように確認したのか、どういう点で類似性を判断したのかといった考え方を明確にする。

## 6. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

## 7. その他

提出資料

なし

## 参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000120.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000121.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000122.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000123.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html)
- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000124.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html)

- ・ 令和5年8月21日  
「日本原燃(株)再処理施設、MOX施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」
- ・ 令和5年8月25日  
「日本原燃(株)再処理施設、MOX施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	規制庁、掛川です。それではただいまから日本原燃とのヒアリングを開始します。
0:00:06	本日のヒアリングは、令和4年の12月に申請があった、再処理及び廃棄物管理、令和5年の1月に申請があった、MOX燃料加工施設の設工認申請について、8月21日及び8月25日提出の資料。
0:00:23	に、ヒアリング、事実確認を行うヒアリングになります。
0:00:27	規制庁側の出席者ですが、本庁側からハバサキ、
0:00:32	カミデタケダ。
0:00:34	ウェブからの参加が、
0:00:36	古作調査官キシノ。
0:00:37	以上になります。それでは日本原燃の方から出席者の紹介と、それぞれの担当の役割、本日の説明配当達成目標について説明をお願いいたします。
0:00:48	はい。日本原燃のオガセでございます。本日のヒアリングにつきまして日本原燃側の出席者についてご紹介いたします。日本原燃より、ノモトオガセヤマグチ。
0:00:58	と、東電設計よりウノ様後大林組よりワダ様。以上五名の参加になってございます。以上です。
0:01:06	出席者についてちょっと補足させていただきます。九州電力赤司さんですね、ヒアリングもですね出席をできるだけしたいというふうにおっしゃっていただいていたんですけども、
0:01:18	ちょっと9電さんの方の対応が少しちょっと詰まってしまってどうしてもちょっと駄目だということで競争、申し訳ありませんということをお言付っております。
0:01:29	出席者についてのそこ以上でございますので、本日ご説明でございますけれども8月21日にご提出いたしました補足説明資料とそれから25日にご提出いたしました23日ヒアリングを、
0:01:43	資料修正対応方針についてのご確認いただくということでございます。ですね、8月25日にご提出しか対応方針すきまして、
0:01:54	このときですね、パワーポイントとそれから補足説明資料への反映方針についてまとめさせていただいております、今日こういう方、基本法の形でですね修正はしてるところなんですけども、

0:02:08	25日に今後の進め方たに係るヒアリングの時に、その介護者のパワーポイントの方を主にですね、その日付等々についてのご確認をいただいて、その際の議論もやはり踏まえた中の形で、
0:02:24	現在修正したものを今日お出しすることとなっております。従いましてこのですね25日ご提出の対応方針のところは、2-3期時点での議論をもとにこれちょっとまとめさせていただいておりますけども、
0:02:38	やはり25日のですね、議論をもとに、そこから表現、表現に構成等も修正しておりますので、ここで書いています。
0:02:48	報酬のままに、今、本日出すものが直ってるわけではないというところなので、ずっと、この再度検討した結果の仕上がりがちょっと本日出しすることになってると。
0:03:02	いうことを、ご了承いただければと思います。
0:03:05	ですね、そのCポツ管板部分の減衰定数とでも今日表層の部分の技術的な系統の部分ですね、梱包でお示しております。
0:03:17	修正方針、従ってパワーポイントの方も、大体やっておるというところでございますし、またそれを踏まえて、
0:03:27	資料に反映すべきところというものもこの25日の提出の対応方針のところでは書かせていただいております。
0:03:37	これにつきましては、コウノですね、お出しした対応方針から変更なく、補足説明資料に反映していく、我々、予定としております。もちろん21日までには反映されておりませんが、
0:03:51	今後やるつもりで我々おるということを聞きいただければというふうに思うところでございます。
0:03:58	というところですね、25日のご提出の資料についての補足は以上でございます。はい、永見です。はい。ちょっと規制庁カミデですけど、
0:04:10	何で結局、この資料通りでなくてもいい。なければ、もうすぐ出てくるので、そういうミーティングじゃうだけの話なので、25日の資料の中身の話はしないんですけど、
0:04:24	ちょっと体裁面だけで一応確認したいのが、他に竜巻だとか、水防5で、今、共通12とかいろいろ作って
0:04:36	ますけど、そこで対応方針という形で、資料をいきなり直すんじゃなくて、
0:04:43	ヒアリングを踏まえて今後こういうことやってみますか、資料をこういうふうにしていきますっていうのを、をもらってそれでヒアリングしたりしてるんですよ。それと、

0:04:54	竜巻と井清は大分フォーマットが似てるのに、
0:04:58	耐震はまた全然違うフォーマットで来ていて、
0:05:03	同じ目的の資料が違うフォーマットで来ちゃうと、
0:05:09	見る側としては、うん。混乱するんですよね。
0:05:13	原燃って何でそれ揃えようってならないのかが不思議なんですけど、ちょっと実情を話して、
0:05:20	実情で申し上げますと、ですね竜巻溢水のスタイルに、できるだけ寄せるべきだという認識で、これは、
0:05:33	スタート、作成をスタートしておりました。一番最初はですねそれ見ないんであれば、コメントに対する何ですかね、コメントリスト、コメント対応リストみたいなものを、
0:05:45	見せたわけなんですけどもそうじゃないよねと、対応方針を溢水、竜巻のマスターに合わせて記載する方向なんにしたいと思ってやり始めたんですけども、
0:05:56	このですね 23 日ヒアリングの内容がですねお出ししているある意味その技術的な検討も踏まえても資料の
0:06:10	についてのご確認の状態であるので、であればもうこれをベースにここについてはこういう対応方針ここについてはこういう対応方針等ちょっと資料 2、
0:06:21	従って、江藤をこういうふうにしますといったような形にした方が、
0:06:27	今後のやることが明確になるんじゃないのかなと思ってちょっとこういうふうにやってしまったんですけども、それがちょっとフォーマット合っていない中で混乱が出てしまったというのであれば、申し訳ないかなと。
0:06:40	規制庁です。
0:06:42	あれですか。
0:06:44	一応、耐震の皆、皆さんも、竜巻だとかイマイ水がどんなフォーマットで出していて、それが経緯だとかも含めて、一応わかっちは、
0:06:58	いるんだけど、その辺はキャッチアップはしてますっていうそういうことです。
0:07:02	その通りでございますの上で、ちょっと考えあぐねてこうなったというところではあります。
0:07:08	はい。規制庁、神谷です。
0:07:12	うんそうだとすると、大分、
0:07:15	うーんという感じですね。
0:07:18	なんか、

0:07:20	その整理しなきゃいけない事項っていうのが、何か端的にまとまってなくて、本当にこう書きますみたいな形で、
0:07:29	だけなので、何かもうちょっと
0:07:33	何て言うんですかね、その目的意識をちゃんとSteeringチームだけ、ちょっと目的市場の目的意識もちょっと合わせて、こういう場合はこういう、
0:07:44	ふうに説明しましょうということ、その後もやりやすいよね。
0:07:48	いう話をちゃんとしてもらった方がいい。
0:07:52	その辺は今日面談でもあると思いますけど、とりあえず状況としては、一応は、ミツイ竜巻もキャッチアップした上での、根井。
0:08:03	方針だということで、とりあえずわかりました。
0:08:06	神野でございます。それで、ちょっと私の感覚でちょっと申し上げてよろしいですか。えっとですね、溢水竜巻の方は検討の方針を、
0:08:18	いろいろと議論させていただいてるところだということで、もうああいう形になるのかなと思いつつも、こっちの方ですね、私の方はここですいません。補足です。はい。
0:08:30	野本さんが、
0:08:32	私のサービス、
0:08:34	アノ許3番。
0:08:36	起こったと思いますけど、先ほどの野本さんの説明が私にとっては非常に残念で、
0:08:43	竜巻溢水、或いは共通12全体といったところのフェーズと、
0:08:50	自分に全体と、あと13日に受けたものっていうのは、作業の方向性というのではなくて資料の修正についてコメントを受けたと。
0:09:00	いうふうに思っているというのが根本的に間違ってると思ってまして。なるほど。
0:09:05	共通12とかにも増して、
0:09:09	資料云々以前に、
0:09:11	君たちのスタンスがちゃんと入口から整理されていないと、うん。
0:09:16	改めてしっかりと認識をしてそれを軸に話をするようにと。
0:09:22	言われたんだと思ってるんですけど。
0:09:25	なのになんで資料修正って思っちゃうんですか。
0:09:29	はい。
0:09:32	今規制庁さんがご懸念の木藤がようやくわかりましたすみません。

0:09:40	おっしゃる通りそうですね。資料修正の方針ということだと、その書きぶりについてのコメントいただいたといったような発想になってしまって、こうしたいんだと。
0:09:52	ということがちゃんと明確にちゃんと整理できてないんじゃないかっていうことをおっしゃってるんだと、いうふうに理解いたしました。
0:10:00	そういう意味で、すいません、今ちょっとおっしゃっていただいたように、江藤、残念だというふうにおっしゃってましたけれども、認識不足だと、ということも理解いたしましたので、
0:10:11	そこんところちょっとよくですね、私自身ちょっと反省いたしまして次回の時には
0:10:20	大井時、
0:10:21	我々の目標に合うような形のものというのでちょっと考えて参りたいというふうに思います。
0:10:31	はい。補足ですよろしく申し上げます。特にですね、
0:10:36	配信についてはこんだけ回数をこなしていても、全然認識が合った形で資料提示いただけないっていうのは、
0:10:46	根本的に何か、
0:10:47	言葉じりかもしれないですけど、履き違えているっていうか認識がずれて、
0:10:53	対応してつもりで、そちらはいるけどこちらは全然対応されてないと思っ ていると。
0:10:59	いうことを、
0:11:01	うん。ずっと続いてると思ってるんです。それを
0:11:05	対応方針ということを書くことによって、ニイズ期ズレがないようにして作業に着手していただくということをしないと、ずっと無駄な時間が過ぎていくということになると思っ てまして。
0:11:19	その原因はやはりその資料を直せばいいんだっていう発想でいて根本を改めようとしな いっていうことに尽きている。
0:11:28	或いは
0:11:29	それが説明をすればいいんだと、自分たちは間違っていないっていう。
0:11:35	ところのスタンスを変えないっていうのも、原因じゃないかなと思ってるので、よく考えてください。以上です。
0:11:44	乾ノモトでございます。承知いたしました。
0:11:49	はい。規制庁神です。他この資料については特にはない。
0:11:55	一緒。



0:11:56	ということで、耐震建物 08 の話ができればと思いますけど、これも先週も触りは聞いてますし、
0:12:06	改めて何か説明して欲しいとこちらは思っていないんですけど何か伝えておきたいこととか先に話をしておきたいことがあります。
0:12:16	2年の分でございます。こちらからは特にございません。
0:12:21	はい。規制庁加賀です。わかりました。
0:12:24	今日はあまり時間もたくさんないので、統一的に話ができればと思いますけど、まずはちょっと全体の構成とか立て付け的なところ、ちょっと話を。
0:12:35	して、そのあと減衰をやり、表層をやって、あとそれ以外の
0:12:44	他の物性の話もあるんではっていうぐらいでちょっと、
0:12:48	進められればと思いますけど、
0:12:53	規制庁唐木です。
0:12:54	まず、端子耐震タテも 08 の、
0:12:59	ページでいうと 4 ページとかから話を、
0:13:04	アノ。
0:13:05	この資料の説明範囲ってどうしますかっていう話が最初にしたいんですけど、4 ページの下から二つ目のなお書きだと。
0:13:18	なんか、計算書の話なんですよねこれ。そうですね。はい。
0:13:22	今、今度 08 っていうのは、地盤モデルの入力地震動をどう作っていくかっていう
0:13:29	ところが主眼の資料。
0:13:32	計算書の話まで入れるのっていう気がしていて、その辺で
0:13:38	どう考えてますかと思うんです。
0:13:40	原点の方でございますどう考えてるかということに対する答えとしては、ここに書いてる、そそうですね、設計でですね
0:13:52	その地震力をどれ使うかというのがこの後段でのまた検討事項にはなってくるんですけども、
0:14:01	そこまでいきツガネもこの私達も 08 期でまとめ切ってしまうのかなというふうに、と我々思ってこんな書き方してるというところではございます。
0:14:13	はい。規制庁上出です。
0:14:15	会合としては、そういうところまで多分パッケージなんだろうと思うんですけど、
0:14:23	その資料として、

0:14:27	例えばですか、6 ページのフローみたいな。
0:14:30	所。
0:14:32	が、
0:14:34	マゼンタいい。
0:14:36	考えてます。どうですか。はい、神野でございます。その通りでございます。
0:14:42	規制庁神戸です。6 ページのフローでいうと、
0:14:53	ちょっとよくわかんないですよ。特に、5.5、5.66 ポツぐらいの流れがよくわからなくて、
0:15:00	5.5 までいくと、まずは基本地盤モデルになるもので、入力地震動を作りますっていう話が、
0:15:11	あるじゃないですか。はい。
0:15:14	何でそのあと2、
0:15:16	6 ポツが選定結果の比較っていうのは、
0:15:22	ある、まず6月のあれなのかな位置付けがよくわかんないから、私が混乱してるのかよくわからないんですけど、6ポツって何したんでしたっけ。日本原燃の郷でございますここはですね。
0:15:33	第1回申請の際の設定と、それから今回検討進めている第2回申請の際の、
0:15:44	扱いの、この比嘉空というのがおそらくいるんだろうなと。
0:15:50	いうふうには思ってたして、その大腰に基づいて、両方同じ形で作ったっていうのはあれなんですけれども、やはりそのプロセスが大分異なりますから
0:16:01	検討というのが最後にちょっと総括しておく必要があるのかなという意味の6ポツでございます。
0:16:08	藤規制庁カミデです。大分ふなんか空中戦みたいなパターンなっちゃいますけど、
0:16:13	第1回と第2回で、はい。比較しました。違いますね。
0:16:19	はい。終わり間違ってもいいです。終わりっていうことですか。
0:16:23	違って、いいですということはちょっと総括しておかないといけない
0:16:30	第2回で随分やりましたんで第1回振り返って問題なかったっていうのが、おそらくいるんだろうなと。
0:16:36	いうふうに私、
0:16:38	規制庁紙、

0:16:40	鳥羽がいいかわからないんですけどそれって、最後にこじつけるんじゃないくて、3 ポツでちゃんと整理をしなきゃいけないところで、
0:16:50	方針としてスタートは一緒なんです。はい。で取り得るといとは途中で違うところはあるんだけど、頭から見ていけば、別に問題おんなじでしょ問題ないでしょっていう話なんで、
0:17:04	そういう体系にしない。
0:17:07	しておけば、6 ポツなんていらんんですよ、頭からちゃんと。
0:17:12	なんで、なんでそのあたりがまず根本的に、最後に、差分を説明するんじゃないくて、最初に、同じところからスタートするっていうところをもうちょっと念頭においた方がいい。
0:17:27	原理ノートございます。
0:17:30	あと、すいません理解を上手くしてなかったんですけども、一番最初の方針のときに、
0:17:38	第 1 回と第 2 回の根本的な方針は一緒であると、プロセスを耐火構台からこうと。
0:17:47	いう形で、もう最初に、木崎でそれが大方針に両方とも合ってるねということであれば結果が、結果的に対して比較するというのは、
0:18:00	それは元に戻ってしまってちょっとおかしいよねって、今おっしゃっていただいたってそういう理解でいいですか。規制庁神戸です。もうちょっとイメージを伝える等前のヒアリングで、その第 1 回と第 2 回、元は一緒でしょ。だから、一緒に書けるところは一緒に書きましようよ、別のところ。
0:18:17	ところを分けてねっていう意図は、
0:18:21	人と同じなんですけど今話をしていることは、6 ページで言うんですね。
0:18:27	第 1 回がもういきなり 4 ポツになっていて、
0:18:31	第 2 回が 5 ポツですと。
0:18:33	言っているんだけど実際に中身を見ていくとですね、4.1 では、地盤の実態を考慮したこれはメーターで設定して、
0:18:42	5 ポツの 3 でも地盤の
0:18:44	実態を考慮したパラメーター設定方法ってなっちゃってるんで、これ一緒でしょ。
0:18:49	なんで項目別々に分けちゃうんですかって思う、思うんですよ、どちらも。
0:18:55	第 1 回も第 2 回、もう地盤の実態をここちゃんと考慮して設定して設定するんですよ。

0:19:01	もともとそういう設計方針なってるじゃないですか。はい。だから、そうやればいいのに、わざわざ変えているっていうところが、同じ考えに立っていないんじゃないのかって思われて思ってしまうので、
0:19:15	4 ポツポツって分けなくていいと思ってるんです。
0:19:19	極論で言うと、
0:19:24	地盤モデルにかけて作っていくんですかっていう時に、第 1 回で考え、考えてないこともあるじゃないですか。第 2 回を平均するとかそういうことはないか、考えてないんだけど、
0:19:36	考えてないけれど考えていただけないで別問題なので、4 ポツ 5 ポツをわざわざ分けて書くことによって、
0:19:46	同じ方針でやってないんじゃないかっていう感じがするので、そこは一緒に説明をする方法の方がよくて、そうなってくると、
0:19:56	結局、一つの方針から、ちゃんと体系的にできているね。
0:20:01	いうことだから 6 ポツで、おさらいする必要があると。うん。
0:20:05	ということですかね。
0:20:08	権利でございます。もう少しすいませんちょっとイメージをちょっと確認するためなんですけれども、
0:20:16	設定方針としては、第 1 回も第 2 回も同じであると、考え方が同じであると。で、そのプロセスがそれぞれで違っていると、そう規制庁プレスプロセスも一緒だと思うんですよね、地盤モデルを作る入力地震動を作る。
0:20:31	プロセスの一緒に、その時にデータを平均のものでやりましたっていう話なのか、ちょっとそのまま使いまして、ちょっといくつか平均したのかっていう。
0:20:41	ちょっとそんなに違わないということです。どうしてもここ一緒に、一緒に説明できると思うんです。
0:20:48	どうしてもプロセスも同じだけれども、データの扱い方が、それぞれ違うだけであると。
0:20:56	ということで、だから、
0:20:59	今おっしゃってるイメージとしてもだから第一課の第 2 回も、もう一つにまとめてしまって、
0:21:08	あれですね、データの扱い方を第 1 回の公社データの使い方を、第 2 回はこうしたと、いうことを中に溶け込ますか滝井が、
0:21:18	ロジックとしては、

0:21:22	正しいよねと。ただしって言い方はあれですけども、砂田米というようそういうことですね。はい。はい。そういうことです。同じ設計方針ですから、是正に基づいて、
0:21:34	入力地震動をつくる設計とし、一緒ですから、プロセスの中にあるし、
0:21:38	承知しました。そうするとすいません。トダテノモトです。6 ページのフローはこう二つに分かれる分かれて、投稿合流するっていうのがやっぱりおかしくて、一つにならん。流れていって、
0:21:52	その中で第一段階、第 1 回、第 2 回といったような形になっていくべきであろうと。
0:21:58	はい。生活ですね、一つにした時にそれぞれの枠で、第 1 回第 2 回っていう、厳格に分かれるかっていうと多分わからなくて、一緒、その中でも一緒にやってるものもあるし、
0:22:10	分けてるものは分かれてますっていう形でやればいいんで、うん。何かアノし、同じ考えでやってるところは同じですよってちゃんと説明するっていうことがまず大事だと。はい。
0:22:26	承知いたしましたです。はい。
0:22:32	早速ですけどすいません今の点で
0:22:37	これでこの 6 ページの書きぶりが、例えば、ゴコウ通読んできてる(3)④っていうのは、
0:22:45	実態を考慮した云々って言っちゃうと、
0:22:48	第 1 回の話が入り込まなくなるんでもうちょっとニュートラルに項目出しをして書く必要があるんじゃないかなと思います。で、結局何が違うかっていうと、
0:23:01	直下ちょ、周辺のデータを用いるっていうのを第 1 回もやっているはずで、
0:23:07	大きく違うのは減衰の設定ぐらいじゃないかなと思うんですけど、どうですか。
0:23:14	県民の方でございます。減衰の設定を深掘りしてるのもそうですし表層について、全体に衛藤を地盤敷地内平均機を、
0:23:26	使うという考え方を、検討として入れてきたというところを、少し違うのかなというところと、あと非正規についてもですね、第 2 回は
0:23:38	設計条件で、
0:23:41	設定できますねというところまでいくけれども、大体の時には非線形を前提とした形での設定になるといったところが、
0:23:51	やっぱり違ってくるのかな。あと何かありましたっけ。

0:23:55	そんなもんですね。はい。
0:23:56	すいませんコサクです。今言われたのも、はい。十分な検討をした上での設定してませんでしたっていうことを踏まえて、検討はしてますけど、結果としては違わない。
0:24:09	院長水木。
0:24:12	元のガバナンスすいません。結果として違わないっておっしゃってること以外私と李とよとりませんでした。
0:24:20	結果っていうのは変わらない。
0:24:27	結果として、
0:24:29	ごめんなさい、モデルとしてどうしたのかっていう結果。
0:24:33	なんですけど、何か変。
0:24:37	アノというのも、第1回のもを今後の変更申請をするとした場合にどういうモデルにするんだっていうと、第2回での方針を踏まえた設定をするんだと思うんですけど。
0:24:50	そんな時に何を变える必要があると思ってます。
0:24:55	元の方でございます。モデルを、
0:25:00	変える第1回のモデルを变える必要があるのかっていうことですか。
0:25:08	ごめんなさい、変える必要があると私は思ってたんですけど、思っていないんですか。
0:25:20	ですね、すいません妬みますけど今回の新基準適合の、設工認の中で変える必要があると思ってませんけど、はい。
0:25:31	うん。
0:25:32	その後、改造工事があろうというときには、第2回の方針に従って意識対応されるものだと思ってました。
0:25:43	玄野本でございます。
0:25:46	正直言って認識しておる、おりませんでした。それぞれの建屋について、
0:25:53	足らずっていうのがあるニッセイを、
0:25:58	要素技術によって均衡をするものとして、認可された扱いになってしまうんだろうな、第1回もノモトいうふうには思っていて、これを、
0:26:09	何か新知見に基づいてというのはない限りは変えないんだろうなみたいな、何とか思ってたんですけどもちょっとすいませんそこ認識が違うなというふうに今、理解いたしました。
0:26:20	ちょっとここは我々も整理して、よく認識合わさせていただく必要があるということも理解いたしました。

0:26:30	はい。そういうことも含めて、何があって、そういうこと含めてくるのかっていうのを明確にするためにも、
0:26:43	僕は先ほど上出が言ったような形で整理し直して、明確にしていくということが必要かなと思います。よろしくお願いします。
0:26:53	榎本でございます。承知いたしました。
0:27:01	まだちょっと私もちゃんと腹に落ちたところがあるんですけども、第1回第2回は、一つの方針として、どんどん統合していくと。
0:27:11	で、結論とし、
0:27:15	今回の第2回での設定が最終的にイセ員等っていうような、
0:27:24	そういうスタイルに、今回は、
0:27:29	長橋柳瀬町カミデですけど今話をしたのは、まずはその辺をちょっと頭から整理してくださいねっていうことがまず大前提で、その結果、
0:27:40	あれって思うようなことがあれば、当然、今後の設工認って反映があるかもしれませんし、何ならね、例えば、
0:27:54	非線形なんていうのは、
0:27:56	どっちでもいいですっていう結論が出てる以上、うん、じゃ買えない。別に変えなくてもいいじゃんっていうことにもなり得るし、
0:28:04	減衰なんていうのは、MOXの方がちょっと保守的にとっちゃってますねっていうことですけど。
0:28:11	現年か。
0:28:13	最初の実績使わせてくださいって今度上げるってくる可能性もあるわけじゃないですか。いろいろある話なんで、今、香田、次も未来永劫こうだっっていうことを決める必要がなくなったね。
0:28:27	まずはちゃんと頭から整理してくださいねっていうのが最初って、その先に、今回の雪子にも話題としては、第1回のもので、もうちょっとまだ使える、ずっと使うの。
0:28:40	という話はその奥にあるという認識で課題認識。
0:28:46	はい。算根本でございます。承知いたしました。同じ方針に基づいて第1回第2回、すでに設定していったらこうであるということ、
0:28:57	一つのストーリーとして、
0:28:59	各秘書ということで理解いたしました
0:29:04	はい、規制庁。
0:29:07	あと、ちなみに、6ページとか、あとは、
0:29:14	へんかな。
0:29:16	309ページ。

0:29:21	309 ページも、これ、減衰の全体像という形で、こんな感じで検討しますよと、それぞれの内容が南北に入ってますよってというのが、
0:29:31	ルート、中身にいろいろコメントあるんですけど、何考えてるかっていうのは、わりとわかりやすかったですね。
0:29:39	これと同じものが表層にもついてよかったんで、表層ってこういうのありませんよね。
0:29:48	受けました。はい、辨野でございます。はい。
0:29:52	今ないです。今ないので。
0:29:54	作りま表作ります。
0:29:56	はい。
0:29:58	そういう形で、
0:30:00	作ってもらうと、まだその表層ん、なんでこれでいいんだっけっていうのがまあ少しわかるようになるはずだし、あとは、資料の作り方というか、レビューの仕方としても、
0:30:11	同じ人が見てるはずなんで、その辺の目線を合わせるようにしてください。
0:30:16	近隣の方でございます承知いたしました。
0:30:21	成長率で、あとは
0:30:25	中身でもないところで言うと、
0:30:32	44 ページ、15 ページ、判断、これ、書き方の話で、減衰のところなんですけど、
0:30:43	44 ページで、まずはそのAポツでその整理とか設定方法、頭の話があるんですけど、
0:30:51	次のページ、bポツに行くと、いきなり結果になっていて、これこれこうした結果、こうですよ、ちょっと会田さすが本文だとしても、さすがに飛び過ぎでしょ。
0:31:03	こういう、中身を今全部添付に飛ばしちゃってますけど、こういう検討した結果、
0:31:11	これこれこういう経緯があって、こういう結果になりましたその間をもう少しぐらい書いてくださいっていうので、これ減衰だけじゃなくて、ちょっとこの資料の本文、
0:31:22	訂正する上でということで、
0:31:25	もう少し、
0:31:27	頑張ってください。
0:31:29	です。



0:31:30	機能でございます。承知いたしました。
0:31:37	はい、規制庁です。あとは、主、
0:31:40	5、13 ページ。
0:31:53	規制庁上津 53 ページは、
0:32:03	5 ポツ 5 で、
0:32:05	補修性及び合理性をっていう、
0:32:10	パートですね、それまでは、地盤の実態を控除したっていうところから、
0:32:16	保守性をっていうことになり、
0:32:19	こっからはだからその基本地盤モデルの保守性をっていうパートになりつつも、話としては減衰のことしか今書いてない
0:32:30	全体の話になってないんです。
0:32:34	さっきの 6 ページのフローなんかで言うと、全部ひっくるめて、
0:32:42	ご都合に行くんだと思ってたんですけど、この辺がまだ
0:32:48	上流常任方針っていうんすかね。こういうふうに考えますよっていうことで、実際やってることの、まだ対応がしっかり整理できてないかなあと思うんですけど、何かお話しできると。
0:33:03	ノモトでございます。確かにそうですね、減衰について。
0:33:10	だけしか回収してないんじゃないかと。
0:33:13	いうおっしゃってる。
0:33:16	は、
0:33:17	そうですね。
0:33:18	設計工費、土肥清OKを回収してはいるつもりなんですね。
0:33:24	減衰を解消して、
0:33:28	ちょっと
0:33:33	改修すべきものは、
0:33:36	最終、現在濃度出す回収できてるものが全部回収できてるか終わった、ちょっと我々もチェック。
0:33:43	しますけれども、
0:33:47	線下が回収できて、減水が解消できる。
0:33:53	と。
0:33:54	一応あれなんですね。
0:33:57	2 番の実態を、を踏まえて、向こうで定めたに対して、何らかの考慮踏まえてっていうのは、その二つで解消し切ることになる。

0:34:09	ということなので、ちょっとそういうことになってあるということがちゃんとわかるように書くんだというふうに理解いたしました。
0:34:14	規制庁菅です。まず一つは、はい。
0:34:17	表層だって、まずメンバーとして書いてくださいって。そうですね。なんだけど表層はここでは触れる必要ないです。一番ですね、実態をそのまま使います。
0:34:30	だからここでの特別な方いません。いらないものをちゃんと受けて帰ってくれと一応いいと思う。そうですね。
0:34:39	がまず一つと。
0:34:41	あとはねえ、本当にこの項目が必要なのかっていうのもあって、さっき言ったように表層は弱非線形はと 2000 件中でも、終わらないんですよ。終わらせちゃってるのでその検討
0:34:53	減衰は、その枠からはみ出してここでやろうとしているっていう
0:34:58	そのアンバランスを
0:35:01	あるので、一つ一つの、はい。
0:35:04	項目の中で、基本地盤モデルのインプットも整理をしているとか、まずは実態まで出ず、次は設計の話ですっていう、このステップなのかっていうのは、
0:35:16	そこはお任せですから、どちらにしても平仄が合うようにしてもらおう。
0:35:24	神野でございます。承知いたしました。
0:35:28	はい。規制庁、丹治です。
0:35:33	はい。
0:35:34	一応、全般と過去、中身というよりは構成の話でっていうところで、私の方からは以上ですか他の規制庁側から言ったような話があります。
0:35:45	規制庁浜崎です。
0:35:50	んなっちゃうんですけども、
0:35:52	11 ページのところですね、
0:35:55	ここで第 1 回の話は、先ほど
0:35:59	時間は、
0:36:01	地盤のばらつきのところの、
0:36:04	上のパラグラフ、
0:36:08	には、
0:36:09	Bの話。
0:36:12	それで、ばらつきを

0:36:15	最初、周辺の値を使うっていうと、対象とする、
0:36:22	直下近傍に単一のデータのみが存在する場合には周辺のっていう
0:36:28	ふうになってますけど、これはまず間違いないですか特に後半のところ、OBについてばらつきって、
0:36:37	周辺の、
0:36:39	状況を踏まえて、設定しています。
0:36:43	うん。はい。表現のオガセでございます。まずこの記載自体は第1回の時に書いたものをそのまま持ってきているというところになってますんで、ヤタ実際にやった内容といたしまして、先ほどハバサキさんも仰ってました通り、4Bのところって
0:36:58	最初した高が1個だけ、外側の1個だけを取ってきたわけなんですけどもつまり、単一データからばらつき幅というものはその周辺直下だけのデータを使ってのばらつき幅というものは見えませんので、いわゆる中央地盤全体も同じ。
0:37:11	がんのところの、ちょっと今、作業時間、
0:37:15	中央地盤全体の
0:37:19	はい。
0:37:21	はい。曜日周辺、
0:37:25	ではない。
0:37:27	表示盤全体で、
0:37:30	配分減オガセその時のばらつき幅の母集団データの母集団は中央地盤全体から、
0:37:37	はい、規制庁。
0:37:41	10円。
0:37:42	50分まで、これ。
0:37:45	という発想条件を踏まえていることははい。
0:37:48	集計と、
0:37:52	類似していると考えられるエリアのデータからばらつきを評価したんじゃないですか、周辺の状況を見て、中、結局ばらつきが中央地盤、はい。
0:38:04	全体で評価したという、日本原燃和智でちょっと説明を飛ばしましたがそういうことですので、4の周辺というところを見て、銅座エリアのばらつき幅の母集団を見ようかとしたら中央全体でとっておけば

0:38:16	広い、広い範囲で、ばらつき幅の母集団としては多く取れるだろうというところの発想で、はい。そうしました。浜崎です。ちょっと説明をもう少し正確に変えたいなど。
0:38:28	要は、段階でもばらつきの考え、設計方針、
0:38:32	方法としては、当間状況に応じて変えていくということですね。
0:38:38	はい。日本原燃のオガセはい。すいません。第2回の話というところでよろしいですね、ご質問は、この第2回に繋がる話なので、はい。
0:38:47	まず第1回の設計方針についてはもう少し正確に書いてくださいというところで11ページについては、
0:38:54	以上。
0:38:55	はい。
0:38:56	はい。かしこまりました。まず第1回のところのお話は事実関係をちゃんともうちょいわかりやすく、すいません書かせていただきます第2回に繋がる時にも同じ方針に、多分4ポツシリーズとコーポチーズでなるべく買ったりしていくことになりますのでそこがちゃんと共通になるように、
0:39:11	記載のほうを改めたいと思います。具体的に言うと多分54ページのポツ5ポツ2のところと、ちゃんとこの4ポツ2ポツ2の今、ハバサキさんおっしゃった11ページがちゃんと共通になるようなところ。
0:39:22	それだろうと思いました。はい。
0:39:26	ソネ2をちゃんと、
0:39:28	皆さんで
0:39:29	ちょっとここ、そうですね。
0:39:32	第二課飯野、いずれその地盤モデルのばらつきということで整理されるんでですね、今、単にその設定方法については通知という
0:39:42	なってるんで、書けない。
0:39:45	もあると思いますから、しっかりとそこは現場ありますけれども、
0:39:50	いうのは、
0:39:52	大丈夫。はい。表現はせずかしこまりました。今の54ページのところでハバサキさんおっしゃったところも、今、具体的にどこを母集団にするまではちょっと書けないんですが少なくとも第1回にも書いている。
0:40:03	周辺のものからちゃんとばらつき幅を決めるというところの方針自体は、第2回も同じになりますのでそういうところはちゃんと第2回も共通のこととして書くように、はい。佐瀬。

0:40:13	出た方がいいです。今のお話でちょっと気になったのは、第2回も同じになりますということは、中央地盤のばらつきというものはもう、
0:40:21	すべて、中央地盤一緒っていう、
0:40:24	日本原燃オガセすいません誤解を招いたかもしれません。第2回のときには、やはりそのグループに応じて、そのグループで複数孔があるんであれば例えばそのグループを使うのもありますし、単独だったら、もしかしたら第1回のやり方、先ほどご説明したような考えもあるかもしれないというところで、
0:40:40	そこは今すいません現状固まっていないところでありますので、少なくとも第1回と同じような書きぶりの世界ではいけるとは思っておりますので、そこがわかるような形にしたい。
0:40:50	はい。はい。
0:40:53	すいません。規制庁深見ですけど。
0:40:55	中身は決まってないんだけどとりあえずそれっぽい書きぶりぐらいはできますと。はい。
0:41:02	というのが欲しい答えじゃなくて、
0:41:05	どうやって決めていきますかっていう話なんですよね。
0:41:10	それを今、原燃は何かその子今こういう取り組みをやって、
0:41:17	やっているんで、あと2ヶ月かかりますか、ドイツとかありますとか、まだ何も考えてませんでしたとか、
0:41:25	その辺の検討状況みたいな、教えてもらいたいんですよ。はい。分限を合わせてございます。ですけれども、我々として最終的に設計に使う上でのばらつき幅というのはどうしても決めなきゃいけないというところは重々認識をしているところでその時に、
0:41:42	まずやはりその特定のグループで複数孔がある場合はそこから、そのデータを使うというのは割とあまり悩みなく、考えていいたろうというふうに考えておりますが、
0:41:52	やはり一つ思っているのがそのグループの中で単独校しかないものというところでございます。で、一方で今回岩盤物性の、す物看板部分の物性値の整備とかでかなり後、
0:42:04	地質とか岩盤区分の類似性というんですかねそういうところもちゃんと分析をかけているところですので、果たして1個しかないデータを中央地盤全体に広げるのが本当に今となつてはいいのか本当はもうちょい例えば中央の中でもうちよい細分化した方がいいんじゃないとか、そういうような検討を、まさにちょっと現在進行形で、

0:42:22	動かしているところでございますので、今ちょっといろんなパラメータを見て、どれをやるのが説明上、一番、
0:42:29	何て言うんすかね母集団として適切か、あと各グループでちょっと考え方が違うというのもよろしくありませんので、もう少し何か統一するとしたらどういう考えでいくのか、いわゆる最大公約数というかそういうような取り方ができるかというかそういうようなところの考え方に基づいて今いろんなパラスタをやっているところ、それが今、検討状況
0:42:47	でした。
0:42:50	成長カミデです。そのあたり少し整理をして、わかるように書いてもらって、
0:42:56	今こういうことやってます。その時には、いつぐらいに話ができますという
0:43:02	面白いですけど、
0:43:05	書き方いろいろあって今言われたように複数行も取れてるようなやつMOXレベルで取れてるようなやつはもういけますっていうので、
0:43:15	もうこの辺のグループは大丈夫です。このグループの中のばらつきありますって改革のろうって出しいやそうじゃなくて、
0:43:23	単純に数だけで言っているのかっていうところもあるから、実際、その物性のこういう数字を見て、決めるんだっていうんであればそういう考え方を、
0:43:33	書いて、
0:43:34	cであとはそのやっぱ少ないところ1個しかないのは、ちょっとさすがにばらつかないからどうすんだっていうのもあるけど、2個だったら3、
0:43:45	ハラっていうところになっちゃうじゃないですか。その時にじゃあどれぐらいであれば設計として妥当なのかっていうところは何か考えなきゃいけないっていう感じでした。
0:43:57	なんでその辺の検討ぶりみたいなのところを書いてもらえると、
0:44:04	話ができる。
0:44:06	はい。
0:44:07	もう少し、これ、
0:44:09	今回の会合ではあれですけどね、
0:44:12	次の段階では、でも、基本地盤モデルって、入力地震動
0:44:17	まず、こんな感じで決めます岩瀬って思うんだと思うんで、あんまり時間も、
0:44:22	余裕はないはずなんで、はい。

0:44:25	話ができるようにしてってください。はい。室元オガセでございますかしこまりました当然今INGで考えているところでございますし、最終的に次回の会合なんです、次回か、次回の会合なんですかね、にはちよつといるとは当然認識してございますので、
0:44:39	北井の方、いたします。おそらく今の検討状況を書くというのが多分1回次の改定でそのあと結局当然、その次の次の会合前にはその結果ばらつきの結果までちゃんと入るような形で動いていきたいと思っております少なくとも1回、
0:44:53	ingのこういう状況だというようなところは、検討の方針とか、
0:44:57	についてはお知らせが記載するようにいたします。
0:45:02	しちゃうんですちょっと今INGの状況だということなんで、今の段階で、
0:45:08	あまり深掘りしてない競争については、今回、
0:45:14	今日一応には、
0:45:18	場合は、
0:45:20	ばらつきについても、
0:45:21	同様、
0:45:22	一応の条件での場合、
0:45:25	はい。
0:45:27	はい。日本原燃のオガセでございます。今回につきましては敷地全体を母集団としたような形にしていますので、その中での一応の、プラマイΣですかね、をしたサイズをつけたやつにプラマイσつけるような形では考えてございます。
0:45:40	はい規制庁、
0:45:42	C層、
0:45:43	4点でも、まだ社員のチェックをして、日本原燃大町で当然承知してございます岩盤と表層するそれぞれで、考え方を記載すべきだと思う。
0:45:55	はい。
0:45:59	はい。規制庁甲斐です。他、全体というか
0:46:03	構成的な、
0:46:05	規制庁はありますか。
0:46:09	特になければ次原水に行きたいんですけど。
0:46:14	今、
0:46:15	現在に行っちゃっても、なかなか区切りが終わると。

0:46:19	ということなんでどうしようかな、なんですけど一旦午前中はここまでにして、
0:46:27	午後少し早めて例えば1時15分ぐらいから、
0:46:31	初めてっていうのもいいんですけど、どうしますか。日本では注射規制庁だけです。一応予定では13時10分ということで、事業者の方から、
0:46:42	して、スケジュールの登録はしてる。
0:46:46	規制庁、わかります。ちょっと私の手元の、
0:46:52	自分が、
0:46:54	十分なので、10分開始ということであれば一旦ここで切って、
0:46:59	1時10分から再開と。
0:47:03	よろしくお願いしますその時に、一応今までの振り返りっぽいのは、最初お話しします。
0:47:09	すいません。はい。もちろん入ってきます。はい。そっか。
0:47:13	そう。
0:47:14	一旦、午前中のは、
0:47:17	明日、
0:47:20	JALCO、



時間	自動文字起こし結果
0:00:02	規制庁の竹田です。それではヒアリングを再開したいと思います。それではまず、午前中の振り返りから行いたいと思います。日本原燃の方から説明をお願いします。はい、承知いたしました。
0:00:13	午前中の振り返りでございます。まず、6 ページ目の環境ですね、共通要因、えーとですね、共通要因というよりもあれですね、前回の対応方針ですね。
0:00:30	対応につきまして大変について例えば技術のフォーマットと大きく異なるものが示されているということで、その目的意識を持った上で対応方針を作成しフォーマットとして同じようできることについて、
0:00:43	この、その検討方針について、再確認するという趣旨をちゃんと踏まえた使用することということとでいただいているということで、認識してございます。
0:00:55	それから建物 08 期の本部の方、オオゴセンキュウをご確認いただいたところですけども、6 ページ目のプロを、で、全体の 1 節目でおりますけども第 1 回と第 2 回、内容分けたフローといいますか途中で文士するような、
0:01:12	フローになってございましたけれども、この第 1 回、第 2 回も同じ方針に基づき同じプロセス、
0:01:18	月とその整備のデータを整理し方が違うということであるので、フローとしては一つの流れということで、その資料全体のですね構成も含めて、そういう考え方で流れた
0:01:35	資料とすることとでいただいております。
0:01:38	それから、5.3. 1 から 5.3. 4 につきまして、ですね、各因子における、方針を変えてそれから次にもう結果という形で、なっておりますその間に挟まるプロセスで、
0:01:53	どっか、検討内容について、
0:01:56	等をその概要がわかるような内容をちゃんと挟んでちゃんと資料を輸出することとをいただいております。
0:02:03	3 番目、5.5 におきまして基本モデルを策定するにあたっての保守性合理性に係る検討としましてこれ減衰に係る内容を、
0:02:15	が特筆されているということなんですけれども、この考え方に基づき、すべてのパラメーターについてどのように考えたかと、いうことをちょっとこの中で書き下すこととで、いただいております。

0:02:28	で、その上でですねこれらの検討を各委員の中で説明した方がいいんじゃないかという話もありまして 5.5 の小委員会の必要性についても再検討することということで、
0:02:43	4 番目、11 ページ、4.2. 2 の第 1 回ばらつき設定につきまして、単独校のみ有する場合に参照する募集の考え方、これを明確に広中にちゃんと記載することでいただいております。
0:02:57	また、5.5. 2 の谷田香月の設定方針の資料 4 の位置付けについても最近
0:03:06	で、5 番目、パーツの設定においては表層地盤と岩盤それぞれについて考え方を示すことということで、
0:03:14	前半部分以上でございます。
0:03:19	規制庁亀井です。一番最初の対応方針のところも、
0:03:24	別に何か竜巻と海水で出てるものが正しいという、正しいと思ってるわけではないので、よく話をして、同じような、
0:03:34	はい。
0:03:35	改善してくださいという。はい。
0:03:40	後は、
0:03:41	本文、
0:03:43	3 番目ぐらい。
0:03:45	5.5 の時自体の必要性についてもってあるのでそうなんですけど、
0:03:52	今残っカクウを維持してっていうことも別に思っていないので、はい。その辺は、
0:03:59	ロジックに応じた資料の構成。
0:04:06	あとばらつきについては、考え方っていうよりも、
0:04:12	次の、
0:04:14	段階で、もう話が確定してるんだったら、資料出してくればそういうふうに思われたんですけど、
0:04:20	時間がかかるんだったらその検討の検討の状況っていうんすかね。ない。今何やってるか。はい。
0:04:27	話をする、したら大丈夫。ばらつきについて検討の方針について、
0:04:34	現時点での、
0:04:36	検討状況、うん。
0:04:44	はい。規制庁、私の方からは以上です。オカ規制庁わかりますか。
0:04:52	特になければ、耐震建物 08 ニイツて、

0:04:58	まずはちょっと原水絡みの話から、いければ、
0:05:04	ですけど、
0:05:05	まずですね。
0:05:16	323 ページ。
0:05:29	323 ページの表は、
0:05:31	わりとわかりやすいなと思って、
0:05:35	見ているんですけどこういう状況なんでっていうのが割と一目でわかるんですが、
0:05:43	これを、
0:05:45	全部
0:05:46	結果が出てきて、そのあとどうすんのっていうところが今一応、
0:05:54	この間も、
0:05:56	話をして、
0:05:58	今日の午前中もそうですけど、何か、
0:06:00	実態を控除していったらさらに、
0:06:03	その合理性だったり、井清だったみたいな話もあるんですけど、
0:06:09	その辺って、
0:06:11	どうしますかっていうか、
0:06:13	どういう。
0:06:15	段階分け、どういった説明にするのかっていうのは、
0:06:21	事業者としてはまだここ考えなきゃいけないと思ってるのか、もう今の、まずは、
0:06:29	感想。
0:06:31	それをさらにそれを下駄履かせてみたい、そういう考えなのか、っていうのと同じ検討状況としてはよろしいですか。
0:06:41	はい、遠藤でございます。考え方を、今問うていただいたんだというふうに思うんですけども。ですね。
0:06:52	まだこれから考えるのかって言ったら、そういう2匹でもなくて、
0:07:00	この考え方の何ですかね、三角は我々の中でこうなんだろうなというのは、持ってこれを作ったつもりではあります。
0:07:10	その中で、
0:07:14	観測記録による方法を
0:07:18	一番中心に置いて、こいつは多面的にいろいろ見ながら、適切な値を設定していくこと。

0:07:26	で、江崎麻生でそれを最後からバックアップして、衛藤施工してるねっていうことを見てやると。
0:07:34	材料減衰の方はそういうふうに出てきたものと、技術的に整合のないような結果になってないかといった点で、これを、
0:07:45	考察する形なんで、直接減衰の設定のところには、タカハシないものの、その妥当性を検討する上での一つの材料になっていると。
0:07:55	いったようなイメージを持ってまして、地震観測記録による方法でいろいろとやりながら設定はするんですけども、
0:08:05	その中でそのリニアマイヤーそれから一定減衰の関係性を踏まえて、世間使うのはどれかというのを選んでやって、そこがもう一定減衰を使いたいというのは設計上の
0:08:19	我々の思いとして、勘弁やりたいという思いが入るので一定月使いたいというところあってるんですけども、そしたらまた次に行ってきたとして、設計としてどういう扱いに使うかというのはまた次の段階と、
0:08:30	何かそんなイメージを我々は思っております。そのつもりでちょっと作っておると。
0:08:37	よう、そういう実業にございます。
0:08:41	はい。
0:08:43	まああの、
0:08:45	介護仕様も今出てきて、
0:08:47	何か補修で保守性を一旦積みたいみたいな話はやっぱ考えとしてある。
0:08:55	運送なのかと思えます。こちらの思っていることとしては、
0:09:01	じゃあ岩石試験とかいらんじゃん。
0:09:04	ことにもある。
0:09:07	話。
0:09:10	そうではなくて実際やろうとしていることを、
0:09:13	こちらが受け取る分には、
0:09:16	まずはいろんなデータが出てくるでしょうと。
0:09:19	減衰だって2%みたいなものもあれば、
0:09:23	フェーズハダと4ぐらい取れて、観測だと6トマッチとかなんならもっと取れちゃったりしますよ。
0:09:31	いうところで
0:09:34	まず取れたものっていうのは結構幅があつてっていうこと。
0:09:38	からまず幅のあるものがまず一つ。

0:09:41	一つというか
0:09:44	その中から、度量。
0:09:46	設計で使えますかっていう段階みたいな話の方が、
0:09:52	その追加調査なり何なり、
0:09:55	けどうん。へえ。はあ。わかってくるのかな。まずは今、全部そろってないんです。本当1から10まであるのに、1から5の中でとりあえず、
0:10:06	トップダウンで、中にふやしてもこれぐらいでした。
0:10:11	いう話。
0:10:12	より確実にデータをふやしても、っていう方が、
0:10:17	キー
0:10:19	聞いてると。
0:10:22	結構そういうふうに聞くとなったら、何となく位置付けが見えてくるなと思いつつですね、いずれにしても、何かそちらのお考えが、
0:10:32	まだふわっとしない。それは
0:10:35	まだ会合資料でも記載が、
0:10:38	頭のほうの記載がまだ揺れ動いてるんで、
0:10:41	わからないんですけど、
0:10:43	保守性として何をこうつくったって、まずは実態として、こんなことをやったんですっていう、やったことと方針との対応がきちんととられないうちは何ともコメント場所を
0:10:55	回ってないですけど
0:10:57	まずはその辺明確にして、まずは自分たちでその納得のいくロジック
0:11:03	形でちょっと話をしてもらえれば、
0:11:07	日本原燃の郷でございます。そうですねここまで検討の経緯は規制庁さんをちょっとご覧いただいているので我々がちょっと
0:11:19	ちょっと検討の時の頭をスワップで引きずってるといのはちょっと付けて見えるかなというふうには思うんですけども。
0:11:27	江藤。おっしゃる通り、今ちょっとストーリーを先に作ってそれにはまるようなデータをみたいな、ちょっと言い方をしてしまいましたけれども、幅広くデータをとってそれを横、全部並べ、まずは並べてみて、
0:11:42	どれを採用すべきかの検討がフラットになされていてその結果、設計として、これ使うねというようなところに持っていくと。
0:11:51	いう流れの方が
0:11:54	今やろうとしてること。

0:11:56	ちゃんとピースは見ようとしたらきっちり入るんじゃないかと、いうふうにおっしゃっていただいたんだと思う。
0:12:02	いて、
0:12:03	我々もですね今ちょっとお聞きして、
0:12:06	確かにちょっと
0:12:09	木内のちょっと話をしちゃったなと私なんか思ったんですけども、
0:12:14	どんどん。はい。元のオガセですけども、基本的に
0:12:19	まずデータを、例えば 100%取るとしたらこんだけあるでしょ。それには岩石コアも入るでしょうということで、最初に位置付け上は、ちゃんと取るべきものとして扱うというのは拝承というかそうあるべきかなというふうにも、
0:12:32	認識しています。その上でそのデータをどう使うかっていうところが、ちょっと多分もちろんちゃんと位置付けをちゃんとしてあげなきゃいけないんだろうなと。
0:12:40	いうふうに思っております、例えば今って先ほど間宮さんおっしゃっておいりましたが 323 ページの表なんかでいきますと、その材料減衰のところの項目に関して言えば、まずこの 3 軸圧縮の結果というものは敷地内で、周り結構網羅的にとられているところですのでにあるものであると。ただ一方で岩石コアっていう別のやり方でやるものが、
0:13:00	先行実績なんかを踏まえてやんなきゃいけないと認識するんだけど、今ないという状況ですけどもその材料減衰としての値としての、
0:13:09	見込みについてはまたよくないんですけどもそういう数字としての辺りとしてはまずこの 3 軸圧縮で見れますので、これについてはちゃんとやっぱり位置付けとしては 3 軸圧縮でとられているものとの矛盾がないかっていうところを、別の観点から見るという位置付けでやる。
0:13:23	一方でS波検層につきましても、この表の真ん中の段ですけども、材料減衰と散乱減衰の項目のところで、SR検層についてはやっぱり全グループで必要だと思いつつも今 3 グループしかない。
0:13:36	そういったところで傾向が取れるとは思っているんですけどもやっぱりやっぱり各グループでの、相対的な比較っていう観点ですかね、そういうような観点で、ちゃんと裏でウダを後から取るというようなそういうような位置付けにしてあげるみたいなところを、
0:13:49	ちゃんと追加で取るものの位置付けっていうところをちゃんと書いてあげる必要があるのかなというふうに思いました当然データとして最初にと

	るべきものだという認識は書くというのが前提の上ですけれども、そういうようなことが、
0:14:01	必要なのかなと今ちょっと考えた次第でした。
0:14:05	規制庁深見です。今岡さん言ったのは、
0:14:09	まずは、
0:14:11	追加調査を含めると、1月までかかっちゃいますっていうのが、会合中に書いてあるんですけど。
0:14:17	それーを待つんじゃなくて、ちょっと先の検討もしたいっていうのは頭があるというのも、我々知ってる。
0:14:25	その先の、ちょっと先どって検討したいということを正当化するためにこう書いたらいいですかっていうのを今
0:14:37	は、
0:14:40	変に何だろう。
0:14:43	今ある中途半端なんですか。が、立川下野だっていう方が多分下かむと思うんです。だから、そこはフラットに事実を述べて、今、こういうものがあってこの中から、まず仮決めたら、
0:15:00	まずは再度やりますよっていうのは、
0:15:05	はい、元オガセですかしこまりました。若干今
0:15:08	も、
0:15:12	だと。
0:15:13	考えれる範囲っていうところをフラット化
0:15:16	します。
0:15:18	規制庁鏡です。なんでフラットに各店今取れて
0:15:22	ちょっとこの辺が、
0:15:23	ねっていうのは
0:15:24	そこ、そこも含めてフラット。
0:15:29	上で、それでもこここのある範囲内で、まず、
0:15:40	はい、現状がそう難しくあります。
0:15:43	五味です。あとですね
0:15:46	簡単な簡単な、
0:15:49	327 ページとか、
0:15:54	ここで今、縮試験には評価結果となって、
0:15:58	結果次のページで 328 ページで、曲線で示してるのが結果、
0:16:04	まさにその結果なんですけど、

0:16:06	何かもうちょっと言葉的に2、
0:16:09	した方がいいんじゃないか。
0:16:11	実態はこれ何%ですかって言って何%かって言えないじゃないですか。 はい。かといって関数書くかっていうと関数確保。
0:16:19	何%から何%とか、およそ何%とか、いろんな、
0:16:27	換算軸圧縮試験だけじゃなくて、
0:16:31	リニアとかバイリニアもそうなんですけど、
0:16:34	一発言葉で言えないから、
0:16:37	図でしか詰め示していないんだけど、多分そこは言語化した方がいいって さっき言ったみたいに、全体を並べるっていう意味だと、当然そうで、参 事か職権だと、何%
0:16:49	この処方だと、約、
0:16:52	みたいな感じで、
0:16:54	そうすると、
0:16:55	よりしやすいはずなんで、
0:17:02	というのでちょっと何とか言語化を、
0:17:05	嘘じゃない。
0:17:07	ただし、
0:17:12	本件に合わせて、
0:17:14	かしこまりました。
0:17:17	今文章では10のマイナス何乗のひずみまでは、
0:17:21	上を超えるところは
0:17:23	洲鎌それ
0:17:25	何ぼから何ぼみたいな数字をちょっと、
0:17:28	ナツメ、
0:17:28	仕事の特徴なんか
0:17:30	もねそれはちょっと、
0:17:35	ついては、
0:17:37	他のリニアの件数のところなんかですね、周波数型のところ周波数依 存型のところにいけば、短周期側に行くほど大きくなるなり、小さくなる なところの傾向を書いた上で、その範囲では何%から何%みたい なそういうようなちょっと書きぶりをさせていただきたいと思います。以上 です。
0:17:55	はい、清長官。



0:17:57	あと、
0:17:58	403、32 ページですねさっきのリニアバイリニアの話ですけど、ここで、
0:18:05	今後の取り組みとなって、で、
0:18:09	何を書いているかっていうと、
0:18:11	431 ページ 2 ニシダヒガシが、
0:18:16	あって、
0:18:18	これが、
0:18:19	思った通り行ってないから、もうちょっと頑張りますっていう、そういう話です。債権は図です。この 431 ページのところの、この緑の線なり青い線が思った通りでないかという、
0:18:32	それよりもちょっと以前の話だと思っております。実態うまくいっていないのは前のページのほうで文章でつらつらと書いているんですが、伝達関数の合わせ自体がちょっと今うまくいっていないねというようなところが実態でございまして、ございまして、
0:18:47	たとえば、
0:18:54	例えば 394 ページ。
0:18:56	けども、
0:18:58	西側地盤は以前二つ関数を合わせ、
0:19:07	はい。394 ページにあるような図なんですが、これを見ますと観測の目的関数として観測記録の伝達関数と、今回減衰と速度構造を同定して出した。
0:19:18	地盤のですね、迅雷資源性状それに基づく理論伝達関数をお願いという、それがちょっとやっぱりこういろんな周期でかなり下回ってしまっているという合わせ切れていないというような状況になっています。てことはこれ速度構造が減衰定数のどちらかもしくは両方がちゃんと合わせられてないと。
0:19:35	ということなんですが、ホデ 431 ページに戻っていただいて、
0:19:40	速度構造と減衰定数が合わせ切れていないのもうちょいちゃんとやっていますというような説明が 430 ページまで、文章で書いていて、ちなみに減衰定数を見てみると、
0:19:51	これはまだ結論を急ぐわけではないので書いていないんですが、そんなにそんなにおかしな、すごくぶっ飛んだ数字っていうところが出てくるわけではないところですので、速度の合わせなんかちょっとよくないのではないのでしょうかというようなもくろみを我々は持っているというようなところは、期待していると。

0:20:06	ございます。ジノでございます。そうすると、何で 430 ページで書いてるのは、そういう今の現況を踏まえてニシウラ今後やっていくんですけども、今ちょっとどういうところが、
0:20:16	足りなくて、今後何やっていきますということを、ここで補足させていただいてることなので、いずれはここにちゃんと 2 ヒガシの結果が入ってきてると、この四角の中は消えていくんですけども、
0:20:30	今回、
0:20:31	ございます。
0:20:34	はい。規制庁、
0:20:36	あとは 433 ページで、地盤の時、
0:20:42	内容を考慮した。
0:20:45	えーと、
0:20:50	ここでもあれなんですよ。
0:20:52	先週もちょっと話しましたが、
0:20:54	そのリニアとかバイリニアで見てるので、何か傾きがのあれだけ見て、
0:21:01	して減衰が何%か NOらしいかっていうのは、
0:21:06	見てない。
0:21:09	はい、元のオガセですそういう意味でちょっと今、自分で作った資料でよくないなと思ったんですが、減衰何%ぐらいだから大体よさそうですねって話っていうのが実はその、
0:21:19	今ほどさっき見ていただいたところに近い、426 ページですかね、基本試験との 426 ページ、8 ページをちょっと見ていただいた方がいいかもしれないんですが、
0:21:30	各検討結果から出てきた佐藤ほか 2006 っていういろんな岩盤のかたさに応じた同定値しかり、経験値の比較があるんですけども、それとの比較を書いておりますので、この比較こそが、何かその地盤の実態をちゃんとあらわしているかの検証みたいなところ。
0:21:46	位置付けになるかと思うので、ちょっとこの章をちゃんとこの今のさっきご指摘いただいた 4 ポツ 3、433 ページ、7 ポツのところを書いてあげると、ちょっとその、
0:21:57	実際に同定された値ベースでは、実態としてちゃんととらえられてますかという確認が入るので、この章に移した方がいいのかなとちょっと思った次第でした。
0:22:07	規制庁、丹治です。

0:22:11	400、
0:22:13	28gで、
0:22:16	%ぐらいのところで見ると、
0:22:19	うん。
0:22:21	この青線とか緑線との、
0:22:24	対応でいうと、はい。
0:22:26	別に下限で取ってるわけでもなく、
0:22:29	うん。
0:22:30	感じなんですけど、あんまりそういうのは関係ない。
0:22:33	そうですねはい。日本原燃のオガセです。このた時ではあくまで地盤の実態っていうところで、冒頭の方でも確か書いてるんですけど観測事実が一番合うのは、
0:22:43	何だろうっていうようなところの検討として行っておりますので、ここの428 ページで書いているところの、佐藤さんの文献で書いている線とかと、よく傾きの傾向とかレベル感の傾向が合っているかどうかの確認でもって、今我々が実施した同定っていうところが観測事実になんとんと適合する範囲で無理のない値が
0:23:03	出ていると、というような形で、同定できた、ということがいえるんじゃないかなと思っていますそこは
0:23:09	実態を考慮したパラメーターというところの結論になるかと思っています。
0:23:14	はい、規制庁。
0:23:15	ちなみにその積分値で同じぐらいになるとかそういうことも特に考えてなく、
0:23:23	別々です。
0:23:25	6.7 は、遺伝的なところでしたっけ、で出てくるものです。はい。
0:23:34	はい。元オガセです。はい。そうですね。今は、各結果を個別に並べて、それぞれ、何ていうんすか、適用範囲の中で合い矛盾しないことというところでやっています。
0:23:45	今おっしゃってた積分値というのは例えば一部州で例えばちょっとしただけけれども、なぜかね、全体いわゆるSI費的な考え方で、全周期体をちゃんとこう積分してあげれば、いわゆる 1 を超えるみたいなそういうような観点がある。
0:23:59	そういうお話でございます。規制庁カミデサノ単純に、何だろう。

0:24:05	428 ページのグラフに、一直線の 6.8%と、なんかそれぐらいに勝手に見えるんでそういうこと、よくそういうことも考えるんですかしてないんですかという単純な議論だけでしょう。日本語
0:24:19	今、上出さんおっしゃった 6.738 かな。その一定の元
0:24:24	話は済ませ
0:24:25	前回
0:24:28	ただ今回フローとかプロセス
0:24:30	を考える上で冒頭のフローでも書いておりましたが、まず実態を掴んで、そこから何かしらとかさ上げするような形の考え方がないかなというところで、もしくは菅
0:24:42	8、
0:24:43	というふうに分けましたのでちょっとこの中で 1 回
0:24:46	観測記録との合いをちょっと犠牲にした形の 6.81 定というものをつけるのはちょっとロジックに乗らないなと思いますのでちょっと今回は消し
0:24:56	規制庁
0:24:57	ありました。減衰に関しては、私の方から確認は以上ですとか、お願いします。
0:25:30	当然、企業文献の地盤条件違うわけ。
0:25:33	それ。
0:25:34	にもかかわらず、なぜ原燃の最初の、
0:25:38	特性を踏まえて、もう、これ結果的にやってるだけじゃないんですかっていう、
0:25:44	そこ、ちゃんと説明できるんですかっていう。
0:25:47	もう、
0:25:48	なんだよ。
0:25:51	結果で、
0:25:52	もって、
0:25:53	大丈夫。
0:25:54	はい、そうです。
0:25:58	はい。日本原燃のオガセでございます。このサトウさんがやっているのもですねこの 620428 ページの図をご覧いただければなんですけども、BSAというオブザーベーションのAの地点、
0:26:10	いうところなんですけど、この中でも 0 から 25、0、25 から 128、128 から 220 というふうに各深さごと、海減衰定数をそれぞれ求めている。

0:26:21	いうところでやってることを我々と同じことなのです。で、つまり我々もアノ層ごとには我々だと表層と岩盤とかよ基盤施設に分けておりますけどもそれぞれの中での伝達関数の比較みたいところで、減衰定数をそれぞれ倉庫別に求めている。
0:26:36	いうことになったときに、このサトウさんのやつにつきましても
0:26:40	いわゆる我々のVsに近いところでいけばオブザーベーションのなんですけれども、そういったところの深さ間のところの減衰定数を個別に出したという意味ではあくまでPSというものをパラメータにして、
0:26:52	そこが類が同じだろうというふうにみなすことができるだろうとそういうような観点でやりました。只野ハバサキさんおっしゃいますように、実際は当然場所場所で、ナカさんらの出方と違って違うだろうとは思いますが、
0:27:05	ちょっとそこまでの情報が、正直すいません既往知見ではあまり見えない。あとはやはり当然散乱減衰の様相というのはもう本当にサイトマターだというふうに思いますが、そういったところについて、何ていうんですかね、
0:27:17	我々のところと完全に同じような条件のリファア先というものはどうしてもありませんので、やっぱり何て言うんですかね、そのVsの構造と、ある意味そのサンランっていうようなところの、エネルギーの消費的なところが大体10日だろうというような、
0:27:31	すいませんある意味前提になってしまうんですが、そういう観点でVsを費ベースに比較すれば、悪くないところ、いいところに渡っているよねというようなところに入るというのは十分確認できると思いましたので、あくまで岩盤のところの比較。
0:27:43	そしてであるならば背弧の比較で十分だというふうにちょっと我々判断はしたところでございました。
0:27:49	その順当力ちゃんとやって、あくまでもこれは一つの、考えない結果でもってすると、
0:28:00	県の施設は、大変見られたと。
0:28:04	いう。
0:28:05	程度というか、そういう一つの違いかなという感じで。
0:28:09	これを打って、例えばもうフェーズはこうですって行けるものではない。
0:28:14	始めました。はい。日本原燃大橋ですおっしゃる通りです。そういう前提があった上での、この知見での、そういう前提条件のもとでははい。そういう確認ができるという位置付けだけになるかと思えます。はい。

0:28:27	はい、規制庁です。ちょっと文章にそこまで細かく書いてないっていうの ちょっと先ほどの大町さんの説明ですけども、これでもってっていうよう なニュアンスが取れたんで、
0:28:38	うん。事実は事実ということで、ただそれはすべてを、
0:28:43	オガセもうといえるのかどうか。
0:28:45	ですね、きちんとそこは客観的な立場を、が生まれた、記載なり内容に してもらえればと思いますので、
0:28:54	今、具体的にどこをどうするのっていう話じゃないんですけども、
0:28:59	ちょっと、しっかりとか、
0:29:02	ところを二つと思います。
0:29:04	で、それですね、なぜそういう花Cになってくるかというですね、
0:29:09	ちょっと戻りましてですね、例えば 356。
0:29:14	G2、
0:29:16	卒業ビルの
0:29:19	そうですね。
0:29:21	これは住宅評価する。
0:29:25	どういう理解なんですよ。はい。はい。
0:29:29	例えば、団体で 342 ページに、これ 2018 年以降、
0:29:36	10 時あったと思うんですけども、
0:29:39	ここの休憩等の結果と、何か微妙に違うんですけど、ちょっとその差、
0:29:46	次。
0:29:47	300
0:29:48	56 ページの初期モデルはこういう設定です。で決めたんです。ちょっと 説明ございました。はい。日本原燃のオガセでございますこちらの文章 にも書いていたところではあったはずなんです、やったことといたしま しては、中央地盤につきましては、
0:30:03	一度ハバサキさんはよくご存知。
0:30:06	許可の段階で、はぎとり地盤モデル、
0:30:11	フジイ場所で、ちょっと古い。
0:30:20	ていうような観点で中央
0:30:34	形で、同じ目的
0:30:44	自身を、
0:30:44	した上で

0:30:52	違いがイシイヒガシとは違うというところがあります。ちょっと今、私の趣旨と違くとされて次の話をされたんですけどまず 356 ページの方にはS波構造の層厚の分布というのは、
0:31:07	342 ページと、
0:31:09	これ、一致してないんですよ。ちょっと。
0:31:17	はい。
0:31:18	はい。日本原燃の加瀬おっしゃる通りです。はい。このプロセスは、基本これはボーリング調査法の 1 のPS検層の結果っていうふうに、
0:31:29	受け取って、
0:31:30	もう、
0:31:32	はい。日本原燃オガセですおっしゃる通りでして、342 ページに書いているのはボーリング孔のところのPS
0:31:39	356
0:31:41	356 ページは、許可の時にお示していたはぎとり地盤モデルの物性値になるわけです。はい。
0:31:48	そこが違うな。はい。
0:31:51	はい。規制庁、黒田です。理解しました。その次のさっき大賀さんが言い始めたところの 357 ページ 358 ページに関しては、
0:32:01	この文章、この資料によると、
0:32:06	途中で 2008 年以前と以降で、地震計の位置を変えたから、
0:32:14	で、今回、同じ西なりヒガシという条件で物性値を決めるということで、その地震計の位置を変えたことの、その変動をVsの幅で、
0:32:26	評価しますと、
0:32:28	Vsアノ。
0:32:29	ニシノヒガシに関してはこの前、
0:32:32	ベースで振ってますよね。
0:32:34	これをもって、その地震計の位置を変えたことの影響を、
0:32:40	ばらつきというか、影響を考慮しますという文章、
0:32:45	あるんですけども、
0:32:47	まずその認識はいいんですか。日本原燃の永瀬でございますちょっとすみません、文章でもしかしたら誤解を招いてしまったかもしれません。
0:32:55	親権位置が変わったことによる影響という意味では既許可のはぎとりモデル西ヒガシにおけると、今回地震計移設した後のサイトウて、今回お示した結果の比較をすることでやることになりますんで、

0:33:10	今おっしゃっ
0:33:24	前後関係を示すかというところでは、
0:33:26	規制じゃないです。そうすると 354 ページ、下から 2 行目から
0:33:31	5 ページにかけての文章。はい。
0:33:36	下から 2 行目 350 から 300。
0:33:41	はい。日本原燃オガセです。この文章の意図といたし、
0:33:46	350 名
0:33:48	中 8 人、はい。
0:33:49	書記も、
0:33:51	この書記
0:34:01	PA
0:34:11	綺麗
0:34:18	考え方で、
0:34:26	と、
0:34:27	に伴う
0:34:29	前後の地震データを使うことは、
0:34:35	ソネイセつ前後。
0:34:38	江藤。日本原燃のオガセです。そういう意味でいきますとすみません
0:34:44	やっていることをちゃんとといいますと、今回の検討に
0:34:48	5 分、
0:34:49	地震
0:34:50	2008 年
0:35:01	でちゃうんです。わかりましたけれどもそれは、今ここでピックアップされている 14、12 の地震以外にも、例えばその伝達関数の妥当性を求めるために 30 人であったり、
0:35:15	或いはさらには
0:35:17	干渉法では 100 幾つか最初入っていた
0:35:22	地震使ってるんですけども、すべて移設後のデータでいいですかね。日本原燃の間瀬です。西側東側おっしゃる通りです。はい、わかりました。
0:35:33	あくまでも規制庁です 357、358 の名前の
0:35:40	衛藤。
0:35:43	VSの、
0:35:44	幅を持たせることに関しては、チューニングといたしますか。



0:35:49	その意味合いだということでもわかりましたけれども、その場合に、Vsだけにした理由ってあります。いやそうだと当然関係して
0:35:59	日本原燃の話です。今ハバサキさんおっしゃったのは、あれですよね初期モデルからの変動幅としてVsをこう横にこうプラマイに準備してるけど層厚もチューニングしていいんじゃないかというお話だと思います。
0:36:10	正直な話をしますと、それはありえます検討としては選択肢として十分あり得るかと思っております。
0:36:18	ただ、えっとですね、ちょっとこれは若干言い訳的な話になってしまうかもしれないんですが、今回のいろんな
0:36:25	PS検層コウノ1回平均的なものとして、初期モデルを作る場合には、当然その層境界も多少場所でちょっと違ったりするので、フロートになるんですアノ層境界が、
0:36:35	ですけど今回その地震計の直下1本、人入れてるそのものの日本というところで、いわゆる
0:36:41	何て言うんすか、主岩盤柱状図なんかも獲られているところですので、速度の境界という意味では、変える必要はないとフィックスしたものでいいだろうという、そういうちょっと
0:36:53	判断をしまして、今回はこうしましたんで、ちょっと今ハバサキさんに言われてしまって、ちょっと今後の検討でやってることをちょっと見透かされたんですけども、本当だったらちょっとそのピースケースのこの段差っていうのも、結構ちょっとアバウトなところが、どうしても
0:37:07	調査の精度上あるかと思しますので、その今ちょっと西側東側の改良の検討といたしましてその層境界の深さをちょっと変えるようなことをした方が、実はうまくいくんじゃないかっていうところも踏まえてちょっとやっているところでしたので、ここはちょっとすいません今後変わるかもしれないというのは、ちょっと今のうち、
0:37:23	はい。
0:37:26	規制庁、今後変わるかも、変わらないかもしれないってことか、そうすると今の段階でここで、
0:37:34	この資料の中で、今やられてる話を盛り込むのはまだ、
0:37:39	イソベない。
0:37:40	はい。日本原電オガセサノ中央につきましては、それほどアノ層境界がよかったのかを変えなくてもうまいのが出たところなんですけども、西側東側につきましては、地層境界を変えるようなところを検討した上で、もしそれが、

0:37:53	ちゃんと観測記録、実態をとらえたものを出せる方向に行くのであればそういうふうに変えることが、もし今の、そこまで至らない検討で十分。
0:38:01	家族、再現性がニシウチとれるようになれば、すみませんやらなくても、
0:38:05	問題ないというふうな判断に変わりはないというところだと思っております。そうしちゃうわけです。今の話ですと東西地盤に関しては、地盤物性だとか、
0:38:16	地盤物性だな。要は、
0:38:19	基本地盤モデルと総称する東西地盤で、一応提案されてるんですけども、
0:38:25	それが変わり得る。
0:38:27	理解
0:38:28	なんですか。日本原燃オガセ
0:38:30	ちょっと聞き逃したら申し訳ございません。今、濱崎さんおっしゃったら、今示してるニシカワヒガシの同定結果の、自分がですね、上程ではなくて、すでに
0:38:41	ニシノヒガシの基本事業モデルは、うん。
0:38:46	こういう層構造にしますっていうのが出てますよね。
0:38:51	その分、例えば層厚なりが変わってくる。
0:38:54	可能性があった。
0:38:56	日本原燃のオガセでございます基本的には、やはり西西側ないし東側の基本地盤モデルの岩盤物性値につきましては、そのPS検層データをもとに作ると。
0:39:09	になっておりますので、そこから今、今でこその観測記録に合わせるためにちょっとしたチューニングをしているところではございますけれども、やはり地盤モデルを作る上で、PS検層情報というのは非常に重要なもの
0:39:20	です。
0:39:21	今岩盤物性の
0:39:23	岩盤の地盤物性等の整備、
0:39:25	市民のうちですかね、でやっているところの数字が変わるという話ではないと。
0:39:37	今後、西ヒガシに関しては、先ほど言われたようなチューニングをよくやってるんで、その結果を見て、それを最終的に基本モデルの方に影響するものなんだろうというのは、これから説明があると。
0:39:53	うん、今のお考えはそれは、

0:39:56	チューニングの結果であると、基本地盤モデルの東西っていうのは、
0:40:00	別物ってな、
0:40:02	うそそこに
0:40:05	チューニングの結果が、ある意味どう、どうあれ、基本地盤モデルは変わらないですよっていう今お話をされたと思うんですけど、そういう理解でいいですか。はい。日本原燃渡瀬おっしゃる通りです。あくまで、今やっているのは地震計の位置のボーリングですので、タテところでとれたものに何か影響するものではないと。
0:40:21	はい。ことです。わかりました。規制庁、伊井です。これ一番最後にも言いますけれども、自然系のところも、特に西側かな。相川さん、ごめんなさい東側かな、相川丸井。
0:40:32	かなりPS件数と乖離してるところも、これ許可の段階から出てるんですけども、
0:40:37	それも含めて、基本地盤モデル東西さかのぼるは話ではないと思うんですけども、
0:40:46	なぜそれが乖離しているのかという、
0:40:50	そういった説明は必要だと思ってますんで、特に関谷。
0:40:54	今回、
0:40:56	ヒガシ特に東側のイセなんですよ。はい。これは後程言いますけど、
0:41:02	ちょっとヒガシ等に関して基本地盤モデルルーの構成図自体がですね、本当に正しいというか現実、
0:41:13	実情を模擬してるものかどうかっていうのは、ちょっともう1回、もう普通、1点、もう少し深い目を見た方がいいというふうに私は思ってますんで、
0:41:22	後程、
0:41:24	お求めたい。
0:41:26	あとですね、まだ幾つかあるんですけど、ちょっと大きなところを確認したいんですけども、360 ページから、
0:41:36	これデータ単数の伝達関数っていうか目的会社といたしますか、その結果が出てますけれども、
0:41:43	これ今 0.09 秒からですよ。
0:41:48	で、後から、
0:41:51	基本的にデータ作成が目的化する場合、
0:41:54	では 0.05 秒からなんですけども、385 ページにこれは中央地盤のその周波数と、減衰の周波数特性が出ている、これ。

0:42:05	0.02 秒から評価してるんじゃないですか。
0:42:09	多分、こちらの想像するに、遺伝的アルゴリズム自体での評価が 20 年ですから、
0:42:17	0.05 秒かな。
0:42:20	0.00 幾つか 20Hzまで書いてるんですね。
0:42:23	その縛りの影響かなと思うんですけども、
0:42:27	そうすると、385 ページ減衰の周波数特性を、
0:42:34	に、要は、短周期ってません。はい。はい。50 ヶ月間で評価できる理由について、
0:42:41	はい。日本原燃の岩瀬でございます。今、ハバサキさんがおっしゃった通りでして、この同定に関しては 20Hz、
0:42:49	よりも短い。
0:42:51	なので、伝達関数のフィッティング自体は、0.05 秒から長周期側しかやってませんで、ただ一方ですら 385 ページで、やっぱり 0.02 秒から 10 秒。
0:43:03	広いスパンで書いていますが、これはあくまでも減衰のモデルとして、 $10-f-N$ 乗としてどういう定義にすると。
0:43:13	最終的にフィッティングとしてあるかってなったことになったかっていう意味であくまでモデルとしての数字として書いたつもりです。一方で伝達関数のフィッティングに影響してないのに書いてるのは何でっていう話があると思うんですけども、この後で地震観測記録のシミュレーションやっておりますけれども、その時に、
0:43:29	やはり当然今回同定の周波数の電磁二シナかったら 20Hzよりも、公衆ハーバーただし中期側ってところにつきましてもこの書いてるモデル、
0:43:39	でやっておりますので、0.02 秒から 0.05 秒までもその震源に入っているわけなんです。やはりそういう意味で今回ちゃんとあのこの後の家、
0:43:48	検討まで含めて、使うモデルとしてこういうふうな範囲でこういう数字にしてるんですけどっていう意味で、つける意味でちょっとここは広い範囲で書かせていただいて、
0:43:56	はい。
0:43:57	規制庁ハバサキですそうすると 385 ページのその大津自体も、0.05 秒から短い周期に関してはこれも外挿していると。
0:44:07	一定にリニアであったり一定の与えたということで、こう考えましたという、

0:44:14	理解でいいわけですね。日本原燃オガセですそういう理解で結構です。施設あるんでその検証は、FISの
0:44:22	いう理解でいいですか。はい、おっしゃる通り表現でオガセですおっしゃる通りです。
0:44:27	はい。池田ウエキです。
0:44:29	前川です。そういったような説明というか、あり、
0:44:35	データさんと違うのになぜみたいなの。
0:44:37	ね、ことをきちんと説明してもらいたいと思います。
0:44:41	表現を外すかしまりましたそういう位置付け的なところ伝達関数のピックアップではここまでの話で、
0:44:48	ここで広いレンジで示したこのためというところがちゃんとわかるように、やはり記載したいと思います。
0:44:54	一旦です。
0:44:58	を、
0:45:01	377 ページに戻っていただいてバイリニア型ですね普通の人たちの、
0:45:08	これは安全の 7 月を今回 10 ヶ月にしてますけれども、これ、376 ページあたりから、それなりのそうであろうというような理由は、
0:45:21	要は一番し、佐藤さんの言うナカノ 10Hz で被災をしてますっていうことなんですけど、
0:45:27	ちょっとこちら辺の根拠をもう少し説明してもらいたいんですけども。はい。日本原燃のオガセでございます。これ普通でしたら、多分ハバサキさんも多分この
0:45:39	折れ点周期も変動させて、同定するということが考えられるというふうなところが真っ先に出るアイデアだと思ってまして我々もそういうアイデアを持ちました。ただですね
0:45:51	今回の資料にも書いてるんですが、S波検層の傾向を見てみると、やっぱり 20Hz よりさらに先行っても、ずっとこう下がっていくようなバイリニアになるような傾向というのが見えないという
0:46:02	ありましたので、言ってしまうと今後同定したら多分リニアの折れ点が発散して出てこない、ないもしくは例えば後、極端な話は 50Hz ぐらいまでその利点が出てくる。
0:46:13	というふうなところになってしまいますと、それっていうのはちょっとあまり、せっかく同定かけても、差にならないというところはあまりこう分析として、あまり目的に沿ってないんだというところもありましたので、やはり

	一つの知見としてサトウさんの中から 20 でおれるという数字もございまして、
0:46:29	当然たんんと低周波側で折れた方が、リニア型との差っていうのが大きいというところになりますので、仮にすぐに折れてしまってリニア型が川内が大きくなってしまう場合に、
0:46:41	高騰に対して影響を与えるもしくは現場スタンス、どれぐらい影響を与えるかという観点で見るのが、今回の分析としては楽しかった新しいと。
0:46:50	的にそうだろうというふうに考えまして、今回は 10 並列で、
0:46:54	決め、
0:46:58	今
0:47:01	古賀さんの説明はわかりましたけど私自身は、太田さんの論文なんかで対象としているのは比較的Vs硬いめのところが多いんで、
0:47:11	今回 6 ヶ所はそれに比べると、銘柄受血提案の中から 20 のうちの一番小さい値にしたというふうに私は受け取ってたんで、
0:47:21	ちょっとやっぱりそこはきちんと説明していただいたないですね、この事件っていうのは、独り歩きする。
0:47:30	といたしますか。
0:47:32	ここに物理的などという意味があったというところがですね、
0:47:36	きちんと説明してもらった方がいいと思います。
0:47:40	はい。日本原燃の岩瀬でございます。折れ線のところの物理的な意味とかもこの文献でどういう地盤に対してやられているかについての説明を追加するのははい。おっしゃる通りで認識いたしました。了解です。多田です。
0:47:54	はっきりは。
0:47:56	先ほども見ていただいてアノサトウ。
0:47:59	我々の想定結果の
0:48:01	比較。
0:48:03	もしかして、
0:48:05	はい、そうですね。やわらかい一番、例えば点線になってるような、Vs 1000 以下ですとかあとは、
0:48:11	1000 ぐらいのOBSの 25 から 125。
0:48:16	10 から 25 で売れるというところは、
0:48:19	一番
0:48:20	何て言いますかねそこに傾向的な差はないということは逆に私は認識しているところで、

0:48:26	ですので、こういうようなところ、各種方、
0:48:43	こういうふう
0:48:43	に思う。
0:48:44	今までの、
0:48:45	施工のプロセス、
0:48:47	そういうのをちょっと確認
0:48:49	はい。
0:48:51	はい来てたから。
0:48:54	ので、
0:48:55	いや、理解しますといいますか、今のナカガワ口頭説明では理解したんで、きちんとはい。
0:49:02	記載をお願いします。
0:49:04	はい、かしこまで日本原燃をカセですかしこまりました。
0:49:07	とですね
0:49:11	ちょっと最初の 440 ごめんなさい、もっと前にあるのか。
0:49:19	いや、
0:49:21	例えばもういや 443 ページにFO-A数が出てますけれども、あと、
0:49:28	まずちょっとこれ、やり方について、
0:49:34	ちょっと説明してもらいたいんですけどいわゆるこれ伝達関数を、要は求めて、解放基盤から
0:49:43	対応する、その上昇、入力受基準、入力空洞の評価位置までの応答を求めるわけですね。
0:49:53	通常の手話相当解析ですねこれは基本的にオガセですおっしゃる通りで、
0:50:00	地震のレベルがどうしても 3040 ガル程度ですので、線形解析、周波数応答解析。
0:50:06	切れた場合、そのときに、周波数一定の減衰の場合っていうのは、当然SHAKEと同じ。
0:50:14	日本研修は繋がらず元推定の場合っていうのは、SHAKEと同じですよ。武居さん。はい、おっしゃる通りです異なる減衰を考慮した応答解析っていうのは、出世SHAKEとはまた別の、伝達関数の中に多分、
0:50:28	周波数依存の減衰が入るような、
0:50:31	大戸甲斐式を、

0:50:33	しているという理解でまずいいですか。日本原燃の加瀬でございます。私がちよっと間違ったことでしたら申し訳ありません。伝達関数は相当解析をやる一としてその伝達関数をいわゆる深さ間でかけてあげるんですが、
0:50:46	その伝達関数の形っていうのは、すでに減衰の影響が入っている。
0:50:50	ところですので、当然減衰もそうですし速度構造、
0:50:54	周波数ごとの増。
0:50:56	どっちも考えられた減衰も考えられた上でかけられている。
0:51:01	イセちゃんだけど、言い方を変えますと、周波数依存の減衰を考慮した場合の、これ1次元波動論だと思うんですけど、地震応答解析の
0:51:12	について、方法について説明をしてください。はい。日本原燃、江藤。
0:51:19	437 ページ。
0:51:35	日本原燃オガセです
0:51:37	まず、申し訳ありません。
0:51:41	実際に今回、周波数応答解析と私言ってしまいましたが実際は、時刻歴でやってる可能性があるんで、ちよっとすいませんそこは、
0:51:50	実態としてやっていることは、この伝達関数が、ちゃんとその深さか
0:51:56	線形条件での地盤を、
0:52:01	与えられると。
0:52:11	解析
0:52:12	を考えると、
0:52:15	ヤマザキいいですわかりましたアノというのは、
0:52:18	時刻歴応答で周波数依存の減衰を、
0:52:22	入れる。
0:52:25	ちよっときちんとじゃそこを調べてですね、周波数依存の減衰バイリニアだったらモリイに当たる方が、する場合ですね、方法については説明をしてください。
0:52:36	はい。日本原燃、まずかしこまりました。そこをきちんと説明できるように、また資料にもちよっと確認させていただきます。私の方からちよっと最後になりますけれども、
0:52:46	今の全体 443 ページの例えば県、
0:52:51	あんまりないようはですね、FRSをもって、今回の結果が妥当と言っている言われてる中で、いくつかのところ、特にUD成分ですかね、ミギタなんかは、



0:53:05	7、やっぱり周期体によっては、かなり観測案を、観測は観測のスペクトルを下回ってる場合が、
0:53:14	になります。
0:53:19	また、
0:53:20	ここちょっと 443 ページですと、
0:53:24	次になりますけども、短周期のところが一番周期短いと。
0:53:30	要は、最終的に
0:53:34	今回の減衰が適切だっていうのは、
0:53:43	4 月一定であろうがしやすいゾンデ観測機はの、スペクトルーをある程度、
0:53:54	同等ないしは上回る
0:53:56	結果がですね、計算結果。
0:53:59	ものをもって同等というふうに判断すると思ってるんですけども、それを元としても同じ考えでいいです
0:54:05	はい。日本原燃のオガセでございます基本的におっしゃる通りだというふうに思っています。いわゆる実態が他の林野よりは大きいし、観測記録よりも大きいなし探査記録に対してどうしても
0:54:17	個別の周波数成分なんかがありますので、同等ぐらいのところの限界もあります、はい、そういう考え方
0:54:24	はい。説明ございます。わかりました。ちょっと今与儀さん時あんまり適切かどうかわかんないんでもうちょっとそこはしっかりと、
0:54:31	見て、
0:54:33	したいと思います。はい。源泉については、
0:54:39	はい、他規制庁側から原水がらみでありますか。
0:54:45	イセ。
0:54:51	15 ページあたりは、
0:54:52	うん。
0:54:54	安松大井
0:54:56	なんで、
0:55:01	から、
0:55:05	干渉法、
0:55:07	適用性を説明するにあたっての、結構、
0:55:11	入所あっせんを作りまして、先駆け作って、入社と反射が

0:55:17	介護者の方に、ひいてはにすることができますよという説明が 424 ページぐらいまでされてると思うんですけど。
0:55:25	それで適用にあたっての、
0:55:28	行政の説明、
0:55:30	だとは思うんですけども、あそこはヒライされて説明されているなどは思うんですけど、
0:55:35	だから、ハバノ情報での減衰の算定、教育の線があると思うんですけども、それが同定できたなというのはちょっとわからないなと思っているので、
0:55:48	ワーキング関係使ってこれがどういうふうに関係されるのかその辺を整理する。
0:55:52	はい。日本原燃の岩瀬でございます。確かにすいません。うん。書いてない。
0:55:57	です。申し訳ございません。まず、
0:56:10	そう、ほぼ対象になっ
0:56:12	それが入社から反射になるとちょうど総じて小さく、
0:56:20	実際にやっている
0:56:21	といたしましては、これも 0 より左側の入社制度等 0 倫理が
0:56:35	それを、
0:56:47	私、
0:56:48	資料の中で、
0:56:53	谷もしますので、
0:56:57	そうです。
0:57:10	ああいう、
0:57:12	かしこまりましたちょっと北海道も、今パッと逆に思い浮かばなくて本当に恐縮なんですけどちゃんと確認した上で、そういった抜けがないか。
0:57:33	はい。規制庁、
0:57:38	時間もいないので表層には思うんですけど、
0:57:43	その前に、減衰のところ浜崎の方からいろいろ話を聞きましたけど、
0:57:51	何かこういうところは足りないよみたいな。
0:57:55	勘所がいつも合わないような気がしていて、
0:57:58	多分言ったところだけじゃなくて、資料 4 でよくわかんないなっていうのが、こちらのよくあるポイントなんですね。
0:58:09	言ったその限られた時間の中で、コメント出せるところも、

0:58:14	全部は出せないわけで、
0:58:18	なんだけどそこだけ
0:58:19	中学校でやっているといつまでも終わんないっていう。
0:58:26	資料出してもらわねえなっていう思ってるんじゃないかなと。
0:58:29	思うんです。
0:58:31	どうする
0:58:39	意識をした上で抜けなくなるなど。
0:58:48	見るべきところがすいません。
0:58:51	押切。
0:59:09	通りで出す度にちょっとご指摘いただくということも、我々もちょっと準備自体もあるんですが、
0:59:16	えっとですねえ。
0:59:19	素人目では私も見てまして、時々まだのようなことを言いながら、足したり引いたりしています。今回に関して言えば、
0:59:31	一応一通りちょっと電力の支援の方にも行っていただいて、私たちがセンスはやっぱりちょっと先入観を持ちながら見てるところが、
0:59:42	あたりすると、どうしても抜けが生じているところがやっぱりあるので、やっぱりちょっとそこは申し訳ないですけどもツーコール摺りコードを我々もちょっとやらせていただきながら、
0:59:54	改善を図らせていただくということでちょっとやらせていただけないかなというふうには思いますんでちょっとご指摘いただいた視点も踏まえて、ちょっと我々も
1:00:06	何度もちょっと見返ししながら、やっぱりこの上で見るところはないよねっていうのをちょっと見改善してくる仕方がないのかなと、ちょっとすいません抜本的になんぞというようなお答えにはならんのですけども。
1:00:19	そういう形でやっていただけないかなというふうに思ってます。
1:00:23	はい、規制庁カミデサノいきなり 100 点満点とってください言ってもしょうがないと。
1:00:30	大津さんは、
1:00:32	ないですよ今までの経験の中で、すごい審査対応されてるんで、
1:00:38	それと比べてもなかなか進みが遅いんじゃないかなっていう気はしていて何か
1:00:54	じゃあや、
1:00:55	他対応と比べると、
1:00:58	かなりマジな方だという感覚は持っていて、

1:01:03	もっといえる広野作業を、
1:01:05	ちょっとうしてきたようなところはあるかなというのは主観的な感覚ではあってで、
1:01:13	そうですね。
1:01:16	ただ十分だなんて全然思っていないんです。思っていないんですけれども、ちょっと今回レビューワーの方もそれなりにアキモトたくさんやっぱりちょっと管理いただけることになったんで、
1:01:29	ちょっと目をふやして、できるだけちょっと補足して参りたいというふうに思います。
1:01:35	はい、規制庁CAMSわかりましたその辺も追々の改善だと思うんでは、また話ができれば、ちょっと時間もないので、
1:01:44	次表層の話をしますけど、
1:01:47	まず表層については
1:01:52	48、先週少し話をしましたが、
1:01:56	48 ページ半分のところ等、
1:02:06	あれですよ。
1:02:08	埋め戻しどう。
1:02:11	とか、全体平均でいけるっていうのがそれが要は実態を反映したものですよ。便宜上の平均じゃなくて、もうそういうもんです。
1:02:21	ということがまず考え中心です。
1:02:26	峯野辺
1:02:27	麻生。
1:02:28	はい。
1:02:33	それで、あと、50 ページに、
1:02:42	なっていた。
1:02:45	48 ページぐらいかな。
1:02:49	要は、今回、埋め戻し度は、施工管理やっているから、平均でいきますってということですね。
1:02:59	流動化処理でも、途中まではおんなじこういう施工か施工管理して、やり方が違うから、流動化処理度は別々です。
1:03:09	梅本氏ともう何か別々なんだけど、
1:03:12	おんなじような感じなんです。だから、一緒にしますっていうのがshouldは、別々の感じなんですか。
1:03:20	というんですけど、何か途中まで同じこと言って、

1:03:24	別々
1:03:25	よって言いながらも、片や平均
1:03:31	どうも交付に落ちない。
1:03:41	うん。その梅本町の方は、土井通の間の管理基準という定義管理権と いうか仕上がりのどっち性っていう点でいくと、同じところを目がけて、
1:03:54	ちゃんと管理したということが確認できたということで全部一つにしてる んですけども、流動化処理の方は、同じところを目がけて管理してる という形。
1:04:05	になってるかというのをちょっと記録紐解くとそこまではやっぱり切れな いよねとそのゴールを目がけているところが、やはりによる存在するよ ねという制御をここをブッセンの観点でもせざるをえないのかなと。
1:04:17	いうところに置いてあって今回のグループにしたということなので、それ はやっぱりちょっと漁場をやっぱり違うのかなというふうには、考えて設 定したというところになっています。
1:04:29	はい。規制庁、安倍です。
1:04:31	4、
1:04:33	埋め戻しとおんなじところを目指したんだっていう説明がですね。
1:04:39	どこにあるのか、例えば、
1:04:43	ページ数でいうと、
1:04:47	508 ページなんか施工フローを並べてはいるんですけど、これ見ても、
1:04:55	あれなんですよね。
1:04:57	CORA一緒でしょっていうふうに言われてるようには見えないんですけ ど。
1:05:01	こういうところでもう表現できてますっていうことなんですか。どういうと ころに、
1:05:08	出ない。
1:05:09	います。まず
1:05:10	申し、
1:05:12	右と左で、基本は同じGなんですか管理の流れになっていると、施工の 管理の同じ流れでやられていると。
1:05:23	いうことをまずこれでお示ししながら、そうですね衛藤差異が生じてる箇 所がございます。それがこっこの品質管理の基準であったりとか、
1:05:37	いうところが差異が生じている、管理基準に甘さが生じるということなん ですけども、こちらの方が、そしたら仕上がりが列のところめがけている のかどうかというところについては、

1:05:50	その日上がりですね、データをお示しすることでこれは一定のところを目がけてやっとな、いうふうに
1:06:01	がソウノできるよねということをご説明してるといふ観点でございます。早速ハツタお願いします。はい当然設計のものでございます。
1:06:10	今のご指摘ありました 508 ページだけを見た時にはですね、材料基準化、これ左室と、あとブレンドだということで高他の刷りと六ヶ所ソウノますなんですけども、
1:06:23	そういうものが入っててですねこれから見ると、違うようなことにはなるんですけども、実際にはですねこれ材料基準ということでき湿度を目指してますっていうのがですね、
1:06:36	20002000 年以降にはですね、最終細粒分細粒細粒大湾含有率がですね、35%ということで砂を目指してるといふことが、2000 年以降の
1:06:50	ところで、基準で書いてございますで、1992 年、年以前といふのはですねもうこれ中位段丘という直を目指す名でやっていますので、そういうことからしますとですね、
1:07:01	材料としてはもう砂にしますよといふふうなことで同一の方向にしようとしてるっていふことがございます。あとですね、実際に砂を目指すといふことで、いろいろと
1:07:13	一条カーの云々の話があるんですけども。で、できるだけそういうことを起こさないようにといふことで、固く閉めましょうといふことで最大乾燥密度と最大含水比といふ、
1:07:24	この二つのパラメーターで一番密度を高めましょうといふことで、基本的には砂を使って、2000 年以降は砂といふふうなことで細粒分含有率を落としているといふことで、
1:07:35	同じものを作りましょうといふことで、あとはですね、何を使う、この場所を使いますよとか、そういうものがあるんですけどもそれはエリアの制限で何を使いますといふことを決めているんですけど、
1:07:50	そういうことからしてもですね最初に材料基準として砂を目指す。施工手順としては、その最大乾燥密度等をさ、最適含水比から締め固めるようにしていると。ただ、1900、
1:08:04	99 年以前につきましたはですね、今回の試験で強度といふものを見てたんですけども、2000 年以降は締め固め度を見て、
1:08:11	いふことで、これ、本当に同じ指標になつてるといふことで、それに関してですね、両方の共同特性として、ここで言いますと、

1:08:24	514 ページでございますが、これも市有試験強度ーヒライせん断強度でございますが、非排水せん断強度が両地点でほぼ同じ、ばらつきの範囲に入っていると。
1:08:36	ということで目指したところは、砂で今日材料基準で締め固めました。それで一応機管理基準ということである一定の品質を保ちました。
1:08:47	その結果として影響動特性角一緒になりました。
1:08:50	ということで同じだというふうなことで説明をさせていただいております。
1:08:56	また一方ですね流動化処理につきましては、当時我々御説明した時には、セメントのですね添加量的には 65 から 150 ということで、
1:09:07	それほど我々からするとですねすいません、どぼくうの、そういう改良からするとセメント量としてはですねそんな大きい多くないというふうなことで、一緒にして扱ってはいたんですけども、
1:09:21	本当にこれ一緒でいいのっていうふうな話があったときに、管理基準が若干違うねということで、一次救急が若干異なってるというのがわかりましたそれが 535 ページを見ていただきますと、
1:09:35	このところですね最初のうちはですね品質記録だけを見ておまして、範囲が大体クロスしてるので、同じぐらいのVsが出るんじゃないかなっていうふうな、
1:09:45	思いでですね書かせてはいただいてたんですけども、この時に品質管理しか見てませんでしたけどそのあと他の工事記録等でですねVsがあるということがわかりまして、
1:09:55	この二つを何か分けられないのかということで、基本的に管理基準で分けたんですけど分けてみたところですねやっぱりVsがちょっと違うということで、
1:10:05	その結果からですね、出される、G0 の形が、537 ページに書いてございますように、
1:10:12	この下の方がですね第一グループということで、大体事実の平均が 350 は 380。
1:10:20	下の第二グループというところがですねちょっと飛び出してるものはいくつかあるんですが、平均で 812 ということで、ちょっと倍程度で、
1:10:28	ですねG0 で違っているということがありましたので、これを分けさ、分けるということで、こちらの方は明確に合成に、
1:10:38	後、せん断剛性に違いがございましたので、二つに分けたと、いうふうなことにさせていただきました。
1:10:47	規制庁。

1:10:49	かみ砕いていけばって感じもするんですけど、審査会合で私言ったみたいにシンプルにこれなんですかみたいな。
1:10:57	それぐらいの分譲で答えられちゃう等、すごいわかりにくいな。はい。
1:11:03	要は何なんですかっていうところがまだちょっと、
1:11:07	メーカー、
1:11:08	それがまだ会合資料
1:11:11	多分落とし込ん
1:11:15	で、
1:11:21	で、
1:11:22	一ついえるのは、今宇野さんが言われたようなことを読んでわかるようにしてくださいって一つあるんですけど。
1:11:30	それ、
1:11:32	補足説明でそこまで書かれただけだと、しょうがないんだ。
1:11:38	資料でこういう理由で、
1:11:40	こっちは
1:11:42	平均なこういう理由で、別々の、なんだろう。
1:11:48	首藤等流動化処理の差を、
1:11:50	介護資料で説明するわけじゃないんですけど、こういうポイントで決めてますよ。
1:11:55	ことだけを、説明板
1:12:04	さっき話が
1:12:08	単純な、
1:12:11	同じような採用、材料とかさ、歳出、歳出っていうのなんかどういうあれなんですかね。難しいですけど、
1:12:22	粒の大きさみたいな。
1:12:24	そうですね。はい。当然設計の部分でございますが、
1:12:28	いう構成要素なんですかね、大きさ、あとは、密度だったり、あと完成率とか、そういうところで強度的、
1:12:37	先般来た。
1:12:40	ですが、基本的には誘導ですね、その粘土質粘土なのか、それとも砂なのか、それともできぼいのかっていうその三つの観点からですね、それを何%含まれてますっていうんで、



1:12:53	これは粘土ですこれはシルトですこれは砂です。これは力ですっていうふうに分類されます。その中で今回やってるやつは全部さ湿度というところに分類されるっていうふうなものにしてあります。
1:13:04	それがどうかっていうと 513 ページのところに流動解析黒線粒径加積曲線なんですけども、
1:13:10	その粒度分布を入れたやりますんで、その先ほどの三角指標に入れてありますとみなすなというふうなところに落ちるということで、同じ材質というふうに考えてあります。
1:13:22	規制庁菅です。砂田ってのは全部一緒ですかっていうと、砂川ウエキ金城とかで、代物なで統一されているのはわかるんですけど、じゃあ砂の中でどれぐらいの
1:13:34	まとまりがあるんですか。
1:13:37	ていうところとか、あと 2、3 段っていうんすかね。これぐらいのものなんですって言えば何となくその、
1:13:45	目指してるものとして、
1:13:48	としてはこんなもんですっていう説明なのか、ただそれだけじゃやっぱり、平均でよだったり、ABとACのその差だったりは説明しきれないので、
1:14:00	そういう意味で言うと、
1:14:04	やっぱりですね、スペクトルの比較がありましたけど、
1:14:10	スペクトルの話もう、
1:14:20	523 ページ。
1:14:25	スペクトルの話はですね。
1:14:28	575 ページにですね、スペクトルが書いてございます規制庁で、
1:14:35	570 何ページっていうと 523 ページにもうスペックがあつてこれ、おんなじものに見えてるんですけどなんで同じものが 2 回出てくるの。
1:14:45	僕はね。
1:14:54	同じ県でございますが、この 523 ページの補足としてですね、
1:15:00	すみません、細かい説明が書いてあるのが、後ろの、
1:15:04	参考の、
1:15:09	参考 4- (3) というところに、細かい説明が、
1:15:13	573 ページから書いてございまして、その結果として、参考のですね 4-9 図と、この第 2 の木野さんの 8 図というのは、
1:15:25	同じ図をですね、ここに入れてございます。
1:15:28	はい。規制庁亀井です。

1:15:30	あと、簡単に。
1:15:33	最後に、競争の質問で、
1:15:38	23
1:15:45	の前にアイザワ 521 ページとかでもいいですけど、
1:15:51	今回その赤と青を、
1:15:55	模擬して書いてみたのが、523 ページの
1:16:01	スペクトルなんですけど、
1:16:03	実際ばらつきに全体平均のばらつきの中にも収まっていますね。
1:16:09	ということは一応は見えると思うんですけど、多少は出てますけど、
1:16:13	カーであっても、これは田原通くんですよ値。
1:16:19	であっても、
1:16:26	種類の仙田
1:16:32	前
1:16:36	全体平均にしていっていいよっていうと何とでもいえるのかもしれない
1:16:40	の。
1:16:41	本来、自分、本来ある敷地の状態に対して、
1:16:47	非保守側の設計になってませんよって言わない、言わないといけない
1:16:53	それが何かばらつきも見た上で、包含されてああそうだね。ですけど、ばらつきを外しちゃった状態で、
1:17:01	じゃあばらつきれた時に飛び出ちゃったとするのっていう疑問がまだ解決できないんですけど、その辺はどうですか。
1:17:09	オンダ設計。
1:17:10	須賀。
1:17:11	今回のですね、523 の結果を出した、
1:17:17	理由といえますか。
1:17:19	理由につきましてはですね、この 521 ページの 2-1-3-6 図で、
1:17:26	8 メーターぐらいからですね、12 メーターぐらいのところに、
1:17:31	2000 年以降でですね飛び出してるAVG0 がありますと、この飛び出してるG0 があるのに、これで平均をとってもいいんですかというふうな、
1:17:42	お話があったところの説明として、ほぼ±ワンシグマに、実際のその、ここでいうと、青の実線が書いてございますけども会議が入ってれば、
1:17:54	ほぼ、この破線で示してる±ワンシグマの範囲でしか事象が起こりませんよというふうに、私の方でご説明させていただいたものの、

1:18:04	ものですねそのあとで、次のページにございます 2-1-3-7 図を出したんですが、これもポンチ絵で何言ってるかわからないというふうな話があったので、実際に解析をして、
1:18:15	それが範囲におさまるとい図がですね、この 3 図というのは 523 ページの、
1:18:23	2-1-3-8 図ということになります。で、先ほどカミデさんの方からもちよつと飛び出してるのがアリマあるというふうな話がありますが、ただ
1:18:33	実際にですね平均的にこの平均値を使った後にですね設計的には土ワンシグマというのを、どこの段階でが最初に入れるのかそれとも設計を最終的な段階で、
1:18:45	この $\pm 3\sigma$ というばらつきをですね、入れる場合、ものにもよります。機器配管の場合には、これから包絡スペクトルですね、 $\pm$ は 10%の
1:18:57	周波数方向に広げるとか、そういう余裕をとったりします。そういうものをとることによって、ほぼですね、平均で与えておいてこういうばらつきを、を考慮してやることによりまして、
1:19:07	実際の事象はもうその中におさまりますよということをですね、口頭で言ったものをご説明させていただくためにちよつと解析をしてきたものでございます。そういう意味で、
1:19:17	これ、ここの先ほどのですね 2-1-3-6 図、521 ページの図でですね こういう飛び出してるものがあつたり、或いは
1:19:27	この赤のところですね 15 メーターイチノセです。
1:19:33	ちよつと問題意識がずれて欲しい。
1:19:35	止めましたけど、521 ページとかで、
1:19:39	緑、特に右側で緑の破線よりも取り入れている青の点線があるじゃないすか。
1:19:45	これを問題視してるわけでは全然なくて、別に出てていいと思うし、統計何だか出るでしょうと。
1:19:52	あとと言って、
1:19:54	青だけで見た場合っていうのは、青の実線と、あとこれも平均なんでばらつきますよね。ハタは赤で実線なんだけどバラつきますよね。
1:20:04	青のばらつき何で今ここで見ないんですか。
1:20:10	藤関野でございますばらつきを見ないっていうのはどういう、
1:20:14	青だけのばらつきを見ると、青だけでばらつきを見て、それでも全体平均とどうなんだっていうのを見ないと、
1:20:22	実態はオノですよ。

1:20:25	勝%岩月なんですよ。はい。あとで実験者でございますが、
1:20:30	これはですねこれからやってみなければわからないというところもあるんですけども、
1:20:35	実際に、
1:20:37	前から言ってますけど、ここと、この地点のですね、全体のデータとしては、ある母集団、93 個の値をとってますので、そういう意味では、ここと一つと考えたときの統計量的には満足してるというふうに考えており、
1:20:52	ただこの案で書いてあるところの数が少なくて、この
1:20:58	この青のボーリングが、ひよっとすると特異な、
1:21:02	ところが入っているかもしれないですね。
1:21:08	というのは最終的にこの統計量が母集団にどんどんどんどん近づいていくとこの青から黒の方に変わっていくんですね。
1:21:16	あれですねちょっとカミデさんの後、ご疑念に、ちょっとうまくかみ合ってお答えできてないのが実態だというふうに思ってるんですけども。
1:21:26	その赤と青の形で別々2 データが整備、刀禰で分けて整理した時にはこういう形で出てくると。
1:21:34	で、何で平均していいのかっていうことに対しては、これは端的に言うと我々最初に、
1:21:45	1901 年以前であろうと以降であろうと、そう管理してるという前提を超えちゃったからなんですよ。はい。
1:21:53	今の皆さんの話もあって、安田だっていっぱい、
1:21:58	平均 1 者がいっぱいあるから、全部集めて、平均したらそん中に活気しますよっていうのは当たり前のお話なんですよ。たくさんあるときに、
1:22:10	その一つ一つを見ずに、全体で平均でやっちゃったらいいじゃない。
1:22:15	でもそれって今回の話って、それ言っちゃうと、もう全部終わりかなんかも、元の経理課のモデルでいいじゃん。
1:22:23	流動化処理ぞって、一緒にしちゃえばいいじゃん。全部全部ナカマにしちゃって、平均しちゃって、ばらつきになるんでしょうそれ統計的ってそういうもんですよ。だからいいでしょうって言われちゃうと、
1:22:37	最初の問題意識の時点なんかずれてる気がして、MOXだって、東側地盤全部平均して使ったもので何が悪いんだよってそういう話なんじゃないですか。
1:22:49	とりあえず池野でございます。
1:22:50	今おっしゃられた気がつきましてはその通りでございます。
1:22:53	はい。

1:22:56	今も、もし取り付けのようですけども、これ、もしものが違うとしたらば、赤のばらつきアオノばらつきって考えるのが当たり前だろっていうそこから話しすんじゃないのっていうことなんですよ。
1:23:11	わかりましたそういう観点でちょっと、
1:23:15	わかりました。ちょっとまた見直させていただけますか、規制庁上津でそれでやったところで、多分出るだろうと思ってるんですよ、この青のばらつき見て重ね描いたらまた出ちゃうねみたいな話になると思うんですけど。
1:23:30	だから、
1:23:32	分けた方がいいんじゃないのっていう気持ちもありつつですね、もう、もう進みたいんだったら
1:23:39	確定している集団で設計するっていうのもありとは思いつつ、1個、ちょっとわからないのが、
1:23:47	今度またボーリング取るって言ってるじゃないですか。
1:23:51	だから、さっきばらついてるっていう話もしましたけど、そこをある程度調査をして、
1:24:01	飛び出ているところが得意なんだっていうところを、土肥に行きたいんだっていう話だと、またそれはそれでね、ちょっと別の話なんですけど
1:24:11	追加調査の目的わからないよみたいな話もしましたけど、そこにまた日付がついてきてああそうなのやっぱり全体平均で、
1:24:22	行きたいんだと、最初に言った思いがさ湿度でこれぐらいの締固めで云々っていう
1:24:28	なってて、
1:24:29	そういうつもりで施工した通りに一応なってるんだっていうデータを取りに行きますと、
1:24:34	言われたらもうそれはそれでそう、そんなもんかなっていう気もするんですよ。なんで、どちら、
1:24:41	どちらでもいいっていうわけじゃないですけど、ちょっと問題意識は伝わったと思うので、これからどう説明するかね。
1:24:49	思いや、
1:24:54	経営データは変わらないんだけど、
1:24:56	もう1回、取り直してそれを確認したい。
1:25:00	位置付けでやっておりましたけども、今ちょっとおっしゃられたことも確かにそうなんで、別途ですね、私の方でちょっと考えながら、これにどう盛り込むかっていうのもありますんで、

1:25:10	ちょっとそれも、考えさせていただきたいと思います。
1:25:15	はい。規制庁、
1:25:16	まあちょっとそこはやっぱり表層についてはその戦略みたいな、その全体ロジックみたいなところが、
1:25:36	はい。
1:25:43	はい。規制庁カミイチとりあえず私の方から
1:25:46	競争で話をしたこと、あと会場他規制庁側からお願いします。
1:25:54	規制庁の岸野です。
1:25:56	今のやりとりに関連して、前段の方ですかね、調整とか施工管理の運用のところは、細かいところで確認したところいろいろあるんですけども、
1:26:07	時間もないので、
1:26:11	一つだけ端的に行きますが、今回の資料の 505 ページで、
1:26:19	2 パラグラフ目なんて、下線がbccたって、
1:26:23	説明がゆうて加わっているんですけども、
1:26:27	明日の燃料ブランク試験施工をやって、
1:26:33	2、所定の強度及び締固め度を満足する。
1:26:38	木田氏厚さだとか何だとかを定める。うん。
1:26:42	これを見るとですね、95 年前、前年以降も、
1:26:48	それぞれに行って試験施工をやってるんで、同じような品質に収まるような、
1:26:54	撒き出し厚電圧機会を調整していますよというふうに、
1:26:59	読めて、そういう説明ができるんだったら、ああなるほど納得があるなと思いつつです。
1:27:05	期待感だけ持たせて、具体的にどうやったのっていう説明が全然なくて、木全北井が売られるんじゃないかなっていうような気も。
1:27:15	地絡もないです。下のパラグラフも見てもですね。
1:27:19	3 行目に締固め材料基準に基づき、
1:27:24	撒き出し厚っていう使えず変動させており、
1:27:29	逆に輸出ができるように定めてるってあって、
1:27:33	これも同じような期待感を持たせてくれるんですけども、
1:27:36	具体的にその均一化を目指してどんな努力をしたのっていうあたりが非常にもやっとした説明で、

1:27:43	何だかわかる人にもわからないように、タマウチハタケだけで、具体的にどう、
1:27:49	充実化を目指すべく、
1:27:51	努力して、さっきの説明がないので、
1:27:54	この点は、
1:27:55	もう少し具体的な、
1:27:58	あとですね例えば上の試験施工であれば、
1:28:01	所定の強度、締固め度ってどれぐらいの強度や締固め度を得るために、
1:28:09	99年以前は巻き出しあった低圧機械ってのはどうしたのか、イセはどうしたのかっていうような、
1:28:15	その試験施工の検討のプロセスとやられた結果ね、具体的に説明すればより、
1:28:23	わかりやすいんじゃないかなと思いますが、
1:28:26	そのあたりは今後説明を追加していただければいいのでしょうか。
1:28:31	はい、当然設計のものでございます。もう一度ですね確認をいたしまして、追記できるようなことがあればですね、今おっしゃられた1999年以前2000年以降のですね、
1:28:44	M、プロセスの具体的なものをですね追加させていただきたいと思います。もう1回ちょっと確認をさせていただきます。よろしく申し上げます。
1:28:54	規制庁の木曾ですはい。申し上げます。
1:28:57	もう1回確認が必要ということは、何だろう、フカホリが足りなかったのかもしれないんですけども、
1:29:04	るということであればそこはお聞きをしていただければと思います。あと、運用時点については、そんなところでして、流動化それについて、二、三、
1:29:15	すみません、規制庁、深見です。
1:29:18	さっきの話で、その昔のDた。
1:29:23	調べてみて、あれば書きますなければ書けませんってそんなもんなんですか。
1:29:28	いや、すみません。ちょっとここのくだりはですね、私
1:29:33	調べてもらったんですけども、自分で今確認をしてなかったもので、これは確認をいたしますという意味で、確認させていただきますと。
1:29:43	規制庁、金光アノな

1:29:46	根拠もなしに、同じだって言ってるのがまずいっていう可能性もあるので、どういう根拠をもって、言ってるんだというのを我々とちゃんと話し掛け、
1:29:59	コメントついちゃうと、当然設計、
1:30:03	申し上げた、
1:30:10	もう一度、
1:30:15	しない。
1:30:17	はい。
1:30:20	以上でございます。規制庁の岸野です。あと続いて 520、529 ページで言いますけれども、
1:30:27	これも河川が入っている 3 パラグラフ目の説明で、
1:30:33	第一グループと第二グループの説明があつてちょっと念のため確認です。
1:30:37	今回のように、2 グループに分けて物産長設定したとしても、
1:30:44	許可で示した解析の物性値は変わらないという理解でいいんですか。
1:30:52	当銘瀬沼でございます。
1:30:54	許可で説明している第一グループというのがですね
1:30:59	補アノ第一グループにつきましてはですね、
1:31:01	影響下で示した段階ではですね。
1:31:04	この第一グループの実際にここで 4 項の試験結果を、4 項の試験結果が出てるんですが、
1:31:15	それにつきましてはですね、全部第一グループだったということで、許可のところから変わることはない、第二グループの方はですね、基本的に ZG1034 という、
1:31:27	1st のヒガシ地盤のところの新しい設定でございまして、そこについてはですね
1:31:37	実際
1:31:40	今日基準強度品質基準基準強度がですね高くなっておりましたので、その部分につきましては、今回、まとめさ、
1:31:49	グループ 2 というふうにして出させていただいているので、
1:31:53	先ほどご質問のございました、新アノ申請書を
1:32:03	事業許可申請書の方には関係してはですね変わらないというふうに思っております。



1:32:09	以上ですはい、わかりました。前回のヒアリングで、許可で示した解析用物性値を変えるのであるからその変更の経緯をちゃんと説明すべきと。
1:32:20	私の方から申し上げたんですけども、この説明を見ますと、許可で収集した物性値は変わらないと。
1:32:27	で、それと別に第二グループという新しい物性値が加わるということですので、変更の経緯というよりは、2グループに分けた理由や考え方の説明をちゃんとしてくださいねというような趣旨というふうに前回のコメントをとらえていただければと。
1:32:45	思いますその確認で質問させていただきましたが理解しました。
1:32:50	はい当然政権のものでございます。はい。承知してちょっと書き谷ないものがありますのでちょっとツジさせて追加させていただきます。
1:32:59	ベッショの基準です。聞き取れないと自覚されてるのはどういった内容なんでしょうか。
1:33:06	前回には影響ないというふうなこととかです。その辺のところにつきましてはここには記述してございませんので、
1:33:13	事業再生町長わかりました。ありがとうございます。
1:33:18	はい。そうですね。そこはもう少し明確に書いておいていただけると安心が増すかなと思うんですが、ちょっと書き足りないなと私の方で思ったことに関して言ったら、ページが 536 ページ。
1:33:36	下線が引っ張ってある 4 パラグラフ目にですね。
1:33:42	大分グループの解析用物性値の説明がここから始まるんですけども、
1:33:47	いきなり
1:33:49	$\rho$ TとG0 の説明を始めていって、
1:33:53	そのデータの出どころが全く説明がない。
1:33:58	このローテG0 の根拠となっているデータとか調査位置っていうのは、
1:34:04	別に、
1:34:07	はい、当然設計。
1:34:09	これにつきまして先ほど言いました、
1:34:14	次、ZG1034 周りのところですね、あと新たにですね、そういう速度構造の工事がしてされておりましたその記録が、
1:34:24	とらえておりましたので、そのデータをですね、つけさせていただきます。はい。
1:34:32	セトのキシノです。その新たな速度構造の工事ってのが、この資料の中でも、平面図が出てきて、

1:34:42	赤丸とか大丸とかのボーリングデータとかありまして、それらには載っていない新たなデータでいいですか。
1:34:49	配当設計のものでございます。はいそれとはまた別の工事。
1:34:54	データでございました。
1:34:57	内野です。
1:34:59	メッセちって、
1:35:02	一番モデルを決定づけております。
1:35:04	本なる。
1:35:06	これなので、オンダデータとか出どころとか加工の過程でちゃんと説明してくださいねっていうのは前回会合でも指摘をしたところなんですけど、そこら辺についても飛んじやったと相変わらず、
1:35:17	思ってしまうのでそこを気をつけていただきたいというか、準備、認識していただければと思います。お願いします。はい、当然設計のものでございます。はい。申し訳ございません。その辺のところは、
1:35:28	きちんとさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。神野でございました申し訳ありませんでした注意して参ります。
1:35:35	清町の岸野です。はい。私から最後にします。592 ページ飛んでいただいて、
1:35:44	相当なという資料。
1:35:46	が出てきているのですけれども、
1:35:50	この 592 ページの上の、
1:35:54	事業のところでは、
1:35:56	ZG13 時 20 分においてはっていう、
1:36:00	出だしから始まるの 2、なぜかですね、本でいくと。
1:36:06	プレゼントに限定した説明になってしまっているんですけども、
1:36:11	1034、24 は、説明を省略できるのですか。
1:36:17	それはなぜZに絞られるのかっていう考え方を教えて。
1:36:22	はい、当然設計のものでございます。ここの検討につきましてはですね、実際に建屋周辺の地盤をですね地盤が改良一番で、
1:36:34	その周辺が次は状態というものに対しまして、
1:36:40	実際に二次元というですね設計とはまた違うやり方で検討を行って参りまして建屋の周辺が実際のように、
1:36:52	周辺だけがですね、

1:36:56	流動化制度で処理されてる場合と、極端に大きくですね処理されてる場合とで比較をさせていただきますが、その結果、影響があまり大きな違いがないというふうな結果を出すということで、
1:37:10	全部について、同じことをやるというよりか傾向としてこういうふうな傾向ですよということを示すためにですね、このZG1034が同じような所、構造にはなってるけども次Zでその確認をしましたと。
1:37:23	いうふうなことで解析をさせていただいております。
1:37:27	寺内です。はい。
1:37:31	ちょっとダムで何校見ますと、590ページ91ページなんかありますと、今同じ構造とおっしゃってましたけど、結構、
1:37:40	アノタテ起こしといいますか細長比といいますか、もう違っているようなものもあるかと思えます。そういったものに関しても、
1:37:48	もうZ代表でいい。
1:37:50	もう言えそうなんですか。
1:37:53	そんな関野でございます。Zもですねここで
1:37:58	NS方向とですねEW方向の日本校をやってございまして、例えばそのNS方向につきましてはですねこういうふうなG13を持ったような長いような括弧になってございまして、
1:38:10	そういうものでもですねそれでZのNS方向とイイダぶり方向ということで、検討をさせていただいておりますので、
1:38:20	ほぼこれに近いような形状であれば、同様の傾向が出るというふうな確認をしたと、いうことをですねここで述べさせていただいております。
1:38:31	成長のキシノサノオノっていう辺り相当な範囲を広げて含めているような気もしたんですけれども、今おっしゃったのは、他の異なる形状なんかも、
1:38:43	ZNSEWをきちんと評価してあげることでその中で含めて説明できますよということだったかと思えます。今そういう、
1:38:54	結果の説明がされているかという多分されていないんじゃないかなと思えましたので、
1:39:01	エージェントで代表できます。23時15年はちょっと形状や周辺地盤状況も異なるものもここで説明できると、いうことをですね、Zの結果から、
1:39:12	きちんと説明していただければ、ああ、なるほどなと思えるんじゃないかなと思えますけれども、そのときに説明できそうですか。
1:39:20	はい、答弁設計のものでございます。そのような形でですね説明させていただきたいと思えます。

1:39:27	ちょっと復習です。本当はもう深掘りしたいところで、どういう方向で説明するのかっていう、三木北井ところなんですけど、今日ちょっと止めておきます。一応その方向で検討いただいて、
1:39:39	かつ、
1:39:42	当然設計のものですが、キシノさん当然設計の方ですが、
1:39:47	実はこれも解析をやってございますので、その解析結果を
1:39:52	ここに載せさせていただきます。
1:39:55	申請中です。はい。
1:39:57	もうそういった説明に行かれる根拠データがそろっているとそういうことかと思いましたので、それらを追加していただいて説明をちゃんとしてください。で、参考7という資料を見ますと、
1:40:08	まず目的が何で、どういう方針で検討していて、具体的な方法は何でやられた結果はっていうところまでは参考の間にね。
1:40:19	じゃなくてですね、本文側で参考7を参照しながら、それとセットでやると、まあ何とか繋がるのかもしれないんですが、そこら辺、ただちゃんと参考7を出すので、
1:40:30	チノーの中でですね、今言った目的、方針等々、結果をどうかつ、
1:40:37	そして本土に比べるのかといったところまでわかりません。
1:40:42	も、それも対応していただければそうです。
1:40:45	はい、答弁設計のものでございます。承知いたしました。
1:40:50	ちょっといいです。はい。
1:40:51	よろしく申し上げます。私から以上になります。
1:40:56	はい、規制庁。
1:40:58	とか表層は、ちょっと大分時間もあり、
1:41:02	大丈夫そうですか。
1:41:05	表3、
1:41:07	まず他の非線形だとか。
1:41:09	岩盤の物性とかもありますけどその辺、
1:41:13	今日のうちに話をしたいことがあればお願いし、
1:41:19	規制庁の岸野です。
1:41:22	でも、
1:41:23	岩盤物性についてですね、大きく2点ほど、
1:41:30	確認したいと思います。まず、77ページの方。
1:41:34	おいてください。

1:41:39	77 ページですね、下の②番の文章で、
1:41:44	地盤の固有周期を比較することで、運用という説明が、
1:41:49	あります。
1:41:50	で、あまり細かいことは、もう今日はやめておきますけれども、
1:41:56	この保有周期を算定する、
1:42:00	直下PS検層データがない建物構築物、
1:42:06	2、少し離れたPS検層データが適用できるかどうかというのを、
1:42:12	固有周期をちょっとストップのPS検層交通で算定して、比較することで、適用性を検討しますとあるんですけども、
1:42:23	日本のヒアリングの時に口頭で説明を受けた、その固有周期の算定方法というのが、どちらのPS検層のニュースを使っていますということだったんですね。
1:42:35	つまり、
1:42:35	新鮮ソウノデータが直下に使えるかどうかを確認するために、固有周期を算定する時点ですでにPS検層直下に使っているということになって、
1:42:49	それ何がわかるのかなというところ。
1:42:53	です。ちょっとPS検数行で、
1:42:57	保有周期、3.2 何が違いがあるから、
1:43:01	各岩種の総務ですね、層厚。
1:43:05	直下とPS検層孔で違ってそれぞれ反映されています。ただ、各層で使ってるブースは同じというようなご説明だったんで、
1:43:15	そうだとするならば、直下に離れたPSでVsを使う。
1:43:21	使えるということも理由を公表した方が、
1:43:26	そもそもの写真合うのではないかなと。
1:43:29	思います。その上で、
1:43:32	そうやって、
1:43:34	同じVsが使えると仮定した固有周期時代ではそう協会だけですよ。それによって、特に新規の値が近いだの、
1:43:44	近くないだろう。それから、何がいえるのかっていったことを、
1:43:49	明確にこういう手術から何が言って何を言えないのかっていうことを明記した方がいいんじゃないか。
1:43:56	あるんですか、この他に。
1:43:58	例年の考えてのはどうでしょう。
1:44:00	はい。日本原燃のオガセでございます。岸野さんのおっしゃってる、

1:44:05	のところの課題はよくわかりました。今やっていることって直下にPS検層がないときには、いわゆる
1:44:12	速度の層境界ないし岩種の層境界の深さが違うことによる影響度の観点だけ書き述べていて、横野。
1:44:23	近傍の近くのPS検層、
1:44:26	BS自体はこの直下でほぼ変わらないだろうアトベ層境界の深さだけが違うんだらうというところだけに、
1:44:32	8回あって、その分析をかけているっていうところで、ある意味そういう前提に立ってるんですよねそこが多分もちろん補強した方がいいだろうと。
1:44:41	いうふうに考えましたんでちょっと、これはすいませんちょっと考えなきゃいけないなと思ってますので、今結論はちょっと、はい。
1:44:48	今、市長さんがおっしゃっていた補強しなければ
1:44:52	もっとちょっと、
1:44:55	②のところですね、のところで、評価の目的とか実際にどういう考えでこう層境界ベース、
1:45:02	ちゃんとして考えることにしたかっていうところをちゃんと記載すべきだというふうに認識しました。ちょっと、
1:45:09	かえって、
1:45:10	以上です。
1:45:12	規制庁の岸野です。はい。ちょっと補強というより、離れたPSのデータを直下に適用することの説明をまず求めているので、
1:45:24	そこをすっきりとしてくださいっていいです。
1:45:28	あと固有数値の値をですね、どう評価するのか、今曖昧とした説明になってますけど、この収益固有振動数って、私の浅い理解で言ったら地盤書別地盤の硬さを評価するための、
1:45:45	目安値みたいなものであったり、
1:45:48	その種別に応じて設計水平震度を変えたりとかっていったものに使うのかなというような、
1:45:54	印象というかその程度の理解しか私はないんで、
1:45:58	それによって、直下等周辺と
1:46:03	どう、
1:46:04	何が。

1:46:05	同じといえるのか、言えないのか、振動特性まで一ついえるのか、入力地震動を評価する上で、これで判断すればいいのかそこまでじゃないのかといったこともちゃんと認識した上でですね。
1:46:19	年齢でやるところっていうのは、正確に説明していただいた。
1:46:24	それをもやっとした何か期待を持たせるかな。でも曖昧なままに設備されるとどうですか、いいかわからないと。
1:46:31	その説明ってのはですね。
1:46:34	改めて正確にできるように、検討いただければなと思いますけれども、大丈夫です。
1:46:40	はい。日本原燃の間瀬です。かしこまりました。考えていきたい、いたします。一応前も口頭でちょっとお話してきつと資料としてうまく表せてないと。
1:46:49	それがいわゆる縦軸の増幅特性につくところと、横軸の周波数特性に行くところ、それぞれの地盤のどういう特徴が要因になって、そういうふうな入力の傾向に出るかっていうところが、きちんとちゃんと分けて書いた上で、その上で、
1:47:04	うん。この周波数で見るとだということまで持ってき方がちゃんとそのプロセスも、また真ん中がないできない結果になって、
1:47:12	悪いので、そこは一旦、
1:47:14	記載したいと思います。以上です。
1:47:17	木内です。はい。お願いします。
1:47:20	あと1点なんですけどちょっとページを打っております。182ページをお願いします
1:47:33	下線を引っ張ってるパラグラフのところが説明が追加されているんですけど、
1:47:39	自重4グループに対して、結果のSF6断層の影響がG36人。
1:47:47	あるかどうか検討されているようですが、
1:47:52	7月の介護ヒアリングで、説明を初めて求め、8月7日のヒアリングでは説明がちゃんとされていた、なかった。
1:48:03	で、最後、問題意識を伝えたつもりだったんですけども、やはりここで、問題意識が違って、
1:48:12	1036ではなくて、14の説明を求めていたのですが、ずれた回答がされているのが、ケツク目です。
1:48:21	前回もお伝えしましたように、最後のブースですね。
1:48:27	2010におけるSF-6断層っていうのがどう、

1:48:33	運航しているかという等、
1:48:35	14号、ニシウラは橋付近、
1:48:39	うん。地表に現れていってそこから、ヒガシというか南東に向かって下がっていくような断層のようでして、
1:48:51	そうですね。これは、
1:48:55	ちょっと具体的な断面EWナンバーとかいうのをお伝えすればよかったんですけども、そういった断面図を見ていただければもう一目瞭然かと思うんですが、
1:49:05	次14の、東西方向断面のところで生徒ロックダウンっていうのが、西の端ぐらいの値正味から東に向かって下がっていくと。
1:49:16	従業員の地盤モデル、
1:49:20	2事業グループの地盤モデルは1014ヒガシ橋でとられてるPS件数。
1:49:26	で、地盤モデルを作っているのですが、当然ながらその東側っていうのは、断層を挟む西側ですね。
1:49:34	地層の落差が七、八十メートルぐらいあって、地層構成も違うし、Vsも同じものが適用できるかわからないという状況だと思います。
1:49:44	そういう、
1:49:45	状況の時需要に対して、千田白水ビジネスケースを入れた地盤モデルが適用できるのでしょうかというのが、
1:49:54	質問の意図だったんですけども。
1:49:57	改めて理解はいただけそうでしょう。
1:50:01	はい。日本原燃のバスでございます。問題は理解いたしましてちょっと検討いたします。はい。
1:50:10	清町の岸野です。それで、8月の7日のヒアリングの時に、
1:50:16	本来、私が見る班で気づいたこととしてありますねっていうことで、
1:50:22	例えばFA施設周辺グループのFCTとかですね。
1:50:28	これは、
1:50:31	今回の資料のこれはF2断層とか何だかについても、影響検討されてるんですけど、アンドウ泉たらそっちじゃなくて、
1:50:39	F2a断層っていうのは将来像。
1:50:42	それは同じような、すみません、生協可見です。ちょっと野本さんの時間も多分あると思うんでちょっと始めてますけど、断層絡みの話
1:50:54	観2本ある断層以外にも細かいのがあって、何か物を見たら、これも何かサカイで違うんじゃないのみたいな、あるよっていうのは前話した通りでまだどこに不十分ですか。



1:51:08	今後、どういうところに対して、どういう説明追加するかっていうのはまた対応方針として、
1:51:15	程度
1:51:27	すみません、長くなってしまって端的に言えば今の通りでございますので、検討ください。それで、もう一つ、どうかと思いますのは、これ、追加調査で、
1:51:39	もうやろうとしていますので、もし、今言った説明に対して根本だけが説明がなかなか難しいということでもあります。
1:51:48	既存のデータだけだと難しいということであれば追加調査でそこら辺を補完するようなデータを得るような計画を立てるということもあり得るのではないかなと思いますので、
1:51:59	そういったところをちょっと踏まえてご検討いただければと思います。
1:52:04	はい、長瀬です。はい。かしこまりました。そういったところも視野に入れた上で、検討対応をする。
1:52:10	すべていたします。
1:52:13	全員挙手はい。お願いします。あと、最後に3月ですが1点だけ、岩盤物性については参考の1参考の1と2という資料がありますが、これもですね、いずれも、
1:52:25	何の目的で何を大丈夫などを説明する資料、データの出どころは何か、どう加工したのか。
1:52:31	インドに比較して何がわかっているかといった説明は全くないという資料かと思います。これは先ほどのコメントに共通することですので、同様の目で見えていただいて、必要な説明を追加していただければと思います。よろしいでしょうか。
1:52:45	はい、湯浅です。かしこまりました。本文に書いているところと別紙で飛ばしている部分というところの位置付けがわかりにくいというふうな話だと思いますのでそのすみ分け、書いてる内容をちゃんと紐づけて、
1:52:55	ご説明するようにします。以上です。
1:52:59	規制庁金です。はい。私から以上になります。
1:53:03	はい。規制庁、深見です。
1:53:05	次の人たちって今きてる。
1:53:09	あ、そう。
1:53:10	そうです。
1:53:12	天田他大丈夫ですか。伊勢。
1:53:19	振り返りは、今日冒頭でも話をしましたけどちょっとやり方が、

1:53:26	竜巻水ともう、対応方針の話がちょっと違いますねっていう話をしたんで、今、またその振り返りをするんじゃないくて、もう少し綺麗な形で、
1:53:38	そうですね、今週の金曜日の進め方の時に話ができるようにするか。
1:53:46	阿藤。ちょっとタイミングがね、開口があるので、何か会合前に対応方針やってでっかい後でまたやって変わるっていうのもあれなので、ちょっと、
1:53:57	一番いいのは、会合の後がもう効率いいんだろうなとは思いつつ、
1:54:04	みんな忘れちゃっても困るからどうしようかなっていう、ちょっとその辺りなんで明日もヒアリングはあるし、介護資料で一番の
1:54:13	話をまたするでしょうかその時にまた話をちょっとしましょうか、今日はちょっと外れてる赤についてます。
1:54:22	あとですね、補足せ
1:54:24	リバイスさんを設定、セットをさせていただくということになってございまして、今日いただいたコメントをですねちょっと拙速にちょっとやるのは、多分間違いノモトだろうなと。
1:54:39	いうふうには思っておりますでちょっとここまでにいただいても反映しませんがというふうにお答えさせていただいてるものを一旦ちょっと明後日の断面ではセットさせていただいて、今日いただいた
1:54:50	疑いをですねここから先次また9月16年のご提出のタイミングなんですけどそこですべて回収させていただくような進め方なのかなと。
1:55:03	いうふうにはちょっと思ったんですけども、そういう認識でございませんでしょうか。
1:55:09	規制庁亀井です。どちらにしても、会合資料には何らかつけなきゃいけないくて、うん。
1:55:16	業者社別として、うん。
1:55:19	なので、これが会合資料に、河川とか綺麗にしたやつがついてきますよっていう版で、
1:55:27	出されて、
1:55:29	というだけなのかなっていう気はしましたけど。
1:55:44	今、だから進めてるもの、中途半端なを引いてオダでも、あれでもね、えっと、
1:55:51	アリマ規制庁カミデさん綺麗なもの。
1:55:54	何とか
1:55:55	会合で、

1:55:57	じゃあつけませんかという話もあって、手つけないってということもないですよ。
1:56:01	だから中途半端なもので出たくないと言われても、もう進捗として中途本当なんだから、
1:56:11	だから、今の衛藤。
1:56:16	明後日は明後日でオザキする。うん。
1:56:19	種田それはできるだけ、今までのシバ取りをした。
1:56:26	だから今日のこういうところまでは反映できるっていうんじゃないかって、もう少しもう1回ちゃんと見直して綺麗な形にするってことですね。
1:56:34	内容的には、
1:56:35	反映ができ、
1:56:37	要はさってというのは、紙あたりの状態でいい。うん。そうですねはい。だからこれのマイナーリバイスマニュアルという形で、一旦成功させていただくと。
1:56:47	ちょっとあんまちゃんが見つけたんだけどこれはそういうふうなところがある。
1:56:52	はい。はい。
1:56:53	はい、承知いたしました。ちょっとそういうことをご説明させていただこうと思います
1:56:58	はい、規制庁他誰でしょう。
1:57:03	はい。
1:57:05	また、今日はこれです。
1:57:09	すいませんお時間、すいませんちょっと変則的なお願いで申し訳ありませんでした。はい、じゃあ、ヒアリング、
1:57:17	はい。音声SIMMERす。